

## 昭和63年度放送利用の大学公開講座の受講生に対する アンケート（各大学共通分）調査結果

館 昭\*  
岩永 雅也\*\*

昭和63年度の放送利用の大学公開講座は、北海道大学、東北大学、新潟大学、金沢大学、信州大学、名古屋大学、大阪大学、広島大学、愛媛大学（四国地区）、熊本大学、琉球大学（沖縄地区）の11大学と高岡短期大学を実施大学として行われた。講座数は、テレビ講座が12講座、ラジオ講座が10講座で、合計22講座が実施されたが、このうち高岡短期大学の講座は従来の45分番組×13回構成に対して、30分番組×9回構成の試みであった。

放送公開講座受講生の属性や意識、要望を調査し、より充実した講座を実施するための資料とするために、毎年各実施大学の協力のもとに実施している「放送利用の大学公開講座の受講生に対するアンケート（各大学共通分）」の昭和63年度分の回収状況等の集計結果は、次頁の「昭和63年度放送利用の大学公開講座共通アンケート集計表」に示したとおりである。

各大学で実施された放送公開講座の媒体、科目名及びアンケートの回収率等については、次頁の「昭和63年度放送利用の大学公開講座共通アンケート集計表」のとおりである。

昭和63年度の共通アンケート総回収数（前年度との比較のため、高岡短期大学分を除く）は、4,224票（回収率46.3%：アンケート回収率/受講生総数）で、前年度（昭和62年度）の3,108票（回収率32.8%：アンケート回収数/受講生総数）を総回数で1,116票、回収率で13.5ポイント上回った。

これは、昭和63年度の受講生総数（9,120名：高岡短期大学を除く）と前年度（昭和62年度）の受講生総数（9,470名）に極端な差がないことを考えると、昭和63年度より共通アンケートの実施方法を改善したことによる差が大きいと考えられる。この、共通アンケート実施方法の改善については、昭和63年度、放送利用の大学公開講座研究会、同専門委員会、同専門委員会小委員会を通じてその実施方法を全実施大学で統一化する方向（全受講生に対するアンケート配布、回収のための督促の実施等）で話し合いが進められ、統一化に向けてできる限り前向きに検討していただくこととなった。これにより、共通アンケートの対象者は全受講生に広がった。

特に昭和63年度に関しては、多くの受講生を集める信州大学において全受講生にアンケートを配布し、その回収に努力いただいたことや（信州大学では昭和62年度まで受講生数が多いこともあり、共通アンケート対象者をスクーリング出席者のみとしてきた。62年度受講生数3,534名・回収数334票・回収率9.5%、63年度受講生2,551名・回収数1,074票・回収率42.1%）、共通

---

\* 放送教育開発センター研究開発部助教授

\*\* 放送大学助教授

昭和63年度放送利用の大学公開講座共通アンケート集計表

大学名	媒体	科目名	受講生数	回収数	回収率	
北海道大学	TV	北海道経済の地平をさぐる	(人) 391	(票) 156	(%) 39.9	
	R	豊かな人間性の創造	409	146	35.7	
東北大学	TV	マテリアル・サイエンス	126	87	69.0	
	R	中国の詩人たち	307	228	74.3	
新潟大学	TV	脳の発生とその障害	693	316	45.5	
	R	いまに生きる昔話	428	177	41.6	
金沢大学	TV	新時代を迎えた世界と北陸の経済	63	33	52.4	
	R	乳幼児の発達	96	59	61.5	
信州大学	TV	センサ工学入門	1856	933	50.3	
	R	日本語セミナー	695	141	20.3	
名古屋大学	TV	土—人間とのかかわり	178	102	57.3	
	R	東海の企業と経済	145	77	53.1	
大阪大学	TV	高温の科学	717	243	33.9	
	R	相互理解	491	149	30.3	
広島大学	TV	新しい材料を考える	162	115	71.0	
	R	法と文化	196	137	69.9	
愛媛大学 (四国地区)	TV	情報科学 — パソコンと人工知能 —	愛媛	539	340	63.1
			徳島	275	171	62.2
			香川	172	105	61.0
			高知	139	86	61.9
			小計	1125	702	62.4
熊本大学	TV	音と人間	332	116	34.9	
	R	地域に生きる	457	222	48.6	
琉球大学	TV	工学における諸問題	160	50	31.3	
	R	沖縄の民族文化	93	35	37.6	
11 大学 計			9120	4224	46.3	
高岡短期大学	TV	工芸の世界	123	83	67.5	
総 計			9243	4307	46.6	

アンケートの回収率が50%以上となるよう各実施大学担当者の御尽力によるところが大きいと考えられる。

また、高岡短期大学分の回収数は83票(回収率67.5%)で、これを加えた全体の回収数は4,307票、回収率46.6%であった。

本年度は、これまでの調査項目である、「受講生の属性」(性別、年齢、学歴、職業)、「受講生のレディネス」(講座を知った媒体、受講動機、受講経験、視聴経験、予備知識、継続学習の経験)、「受講状況」(視聴回数、予習、視聴中のノート・メモ、録画・録音)、「受講生の反応」(今後の学習希望、満足度、理解度、望ましい学習形態、希望の講座タイプ)に番組を継続的に視聴しなかった場合の理由、録画・録音の理由、スクーリングへの参加状況等の新規質問項目を加えた。

ここでまず第1章として、アンケートの各質問項目ごとの基礎集計・分析を行い、北海道大学、東北大学、新潟大学、金沢大学、信州大学、名古屋大学、大阪大学、広島大学、愛媛大学(四国地区)、熊本大学、琉球大学(沖縄地区)の11大学分を大学分として一括して扱い、高岡短期大学分を短期大学分として別個に集計、分析している。(担当館)

そして第2章では学習状況・満足度・理解度に関する基礎クロス分析を11大学分について行なっている。(担当岩永)

## 第1章 項目別基礎集計

### 1. 受講生の性別 (問1: 表1参照)

アンケート回答者全体の性別比率は、男性70.8%、女性29.2%と男性のほうがかなり高くなっている。これは過去5年間で男性比率が最高だった昭和63年度の63.3%と比べても相当高い比率である。

これをメディア別にみると、テレビ講座全体で男性が82.0%、女性が18.0%であり、ラジオ講座全体では男性47.4%、女性52.6%である。このようにテレビ、ラジオ間に有為の差があり、テレビ講座はラジオ講座よりも男性の受講生をはるかに多く集めている。

しかしこの現象はメディアの特性から直接に起こることではないと考えられる。下表は、今

昭和63年度実施講座のテーマ別分類表

テーマ分野	講 座	計	(T)	(R)
文学・言語	東北(R)、新潟(R)、信州(R)	3	0	3
歴史・文化	琉球(R)	1	0	1
法律・経済	北海道(T)、金沢(T)、名古屋(R)、広島(R)	4	2	2
社会・生活	大阪(R)、熊本(T)、熊本(R)	3	1	2
発達・教育	北海道(R)、金沢(R)	2	0	2
健康・医療	新潟(T)	1	1	0
科学技術	東北(T)、信州(T)、大阪(T)、広島(T)、愛媛(T)、琉球(T)	6	6	0
環境・自然	名古屋(T)	1	1	0
合 計		21	11	10

(T)テレビ講座、(R)ラジオ講座

表1 受講生の性別 (%)

大学：講座名	件数	男	女
合計	4202	70.8	29.2
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	155	78.7	21.3
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	146	55.5	44.5
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	87	75.9	24.1
東北大学：中国の詩人たち (R)	227	48.9	51.1
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	314	45.5	54.5
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	176	18.2	81.8
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	32	75.0	25.0
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	58	5.2	94.8
信州大学：センサ工学入門 (T)	932	97.9	2.1
信州大学：日本語セミナー (R)	141	34.8	65.2
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	100	73.0	27.0
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	77	75.3	24.7
大阪大学：高温の科学 (T)	242	89.3	10.7
大阪大学：相互理解 (R)	148	64.9	35.1
広島大学：新しい材料を考える (T)	114	79.8	20.2
広島大学：法と文化 (R)	136	62.5	37.5
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	700	85.0	15.0
熊本大学：音と人間 (T)	116	34.5	65.5
熊本大学：地域に生きる (R)	217	51.6	48.4
琉球大学：工学における諸問題 (T)	50	96.0	4.0
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	52.9	47.1
(T) テレビ講座：全体	2842	82.0	18.0
(R) ラジオ講座：全体	1360	47.4	52.6

年度実施の講座を、テーマ分野別に分類したものである。これによると、テレビ講座11講座の内訳は「科学技術」6講座、「法律・経済」2講座、「社会・生活」、「健康・医療」、「環境・自然」それぞれ1講座、「文学・言語」、「歴史・文化」、「発達・教育」0講座で、「科学技術」と「法律・経済」のみで全体の73%を占めている。つまり、テレビ講座に男性の受講生を引き付けるテーマが集中しているのである。

## 2. 受講生の年齢 (問2：表2参照)

今年度の特徴は、年齢の比較的若い層が受講生になっていることである。特に昨年度と比べると、「20歳～29歳」が7.1%から22.7%に、「30歳～39歳」が16.8%から25.4%へと大幅に比率が高くなっている。この原因も本年度の講座に科学技術関係が多かったことなど、テーマが大きく関係していると思われる。

信州大学の「センサ工学入門」は「20歳～29歳」だけで51.3%にのぼり、愛媛大学の「情報

表2 受講生の年齢

(%)

大学：講座名	件数	20歳未満	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳以上
合計	4212	0.8	22.7	23.1	18.9	15.7	13.4	5.4
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	156	-	5.1	16.7	15.4	23.7	28.8	10.3
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	145	-	7.6	23.4	22.1	20.7	20.0	6.2
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	87	-	9.2	17.2	13.8	12.6	35.6	11.5
東北大学：中国の詩人たち (R)	228	-	2.6	10.1	20.6	22.4	28.9	15.4
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	315	0.6	13.3	25.1	15.9	23.8	18.1	3.2
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	176	-	11.9	29.5	24.4	23.3	7.4	3.4
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	33	-	9.1	21.2	21.2	12.1	21.2	15.2
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	59	-	30.5	32.2	18.6	8.5	8.5	1.7
信州大学：センサ工学入門 (T)	933	1.6	51.3	28.9	14.3	3.1	0.5	0.2
信州大学：日本語セミナー (R)	141	4.3	34.8	17.7	17.0	18.4	5.0	2.8
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	101	-	2.0	11.9	28.7	32.7	15.8	8.9
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	77	-	1.3	9.1	29.9	27.3	20.8	11.7
大阪大学：高温の科学 (T)	243	0.4	6.6	17.7	22.2	25.1	19.8	8.2
大阪大学：相互理解 (R)	149	0.7	10.1	18.8	19.5	24.2	14.8	12.1
広島大学：新しい材料を考える (T)	114	-	10.5	15.8	27.2	15.8	21.9	8.8
広島大学：法と文化 (R)	136	-	11.8	16.9	25.0	17.6	17.6	11.0
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	700	1.3	31.7	30.9	19.4	9.6	6.7	0.4
熊本大学：音と人間 (T)	116	-	3.4	18.1	17.2	21.6	26.7	12.9
熊本大学：地域に生きる (R)	219	-	0.5	11.9	18.3	24.2	30.6	14.6
琉球大学：工学における諸問題 (T)	50	2.0	38.0	30.0	18.0	10.0	2.0	-
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	-	5.9	35.3	26.5	26.5	5.9	-
(T) テレビ講座：全体	2848	1.0	28.6	25.4	17.7	12.8	11.0	3.5
(R) ラジオ講座：全体	1364	0.5	10.3	18.3	21.4	21.7	18.4	9.5

科学」は「20歳～29歳」が31.7%、「30歳～39歳」が30.9%と、工学関係のテーマは若い層を引き付けている。また、金沢大学の「乳幼児の発達」は「20歳～29歳」30.5%、「30歳～39歳」32.2%と乳幼児の親の世代を引き付けている。

### 3. 受講生の学歴 (問3：表3参照)

今年度の特徴は、「大学・旧制高校・旧制専門学校卒」の比率が40.2%と極めて高いことである。(昭和58年度35.2%、昭和59年度30.1%、昭和60年度33.5%、昭和61年度35.7%、昭和62年度31.9%) これには、今年度のテーマが年齢の比較的若い層を引き付けており、年齢層の若いほど高学歴であることなどが影響していると考えられる。

### 4. 受講生の職業 (問4：表4参照)

今年度は「事務・技術系」が45.3%と極めて高い。これもテーマとの関係が深く、信州大学



表4 受講生の職業 (%)

大学：講座名	件数	農林漁業	事務・技術系	労務系	管理職・自由業	教育・研究職	中小企業経営者 商店主	主婦・家事手伝い	学生	無職	その他
合計	4183	1.9	45.3	2.1	4.4	9.8	2.6	13.1	6.5	10.9	3.3
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	155	1.3	35.5	1.9	7.1	3.9	5.2	14.2	1.3	23.9	5.8
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	145	2.1	25.5	1.4	2.8	13.1	4.1	27.6	2.8	15.2	5.5
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	87	1.1	34.5	2.3	1.1	9.2	8.0	12.6	1.1	27.6	2.3
東北大学：中国の詩人たち (R)	227	3.5	22.9	0.4	3.1	8.4	6.6	29.1	0.4	23.3	2.2
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	307	2.0	28.3	3.9	4.6	11.4	4.2	22.1	2.3	12.1	9.1
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	173	0.6	28.9	1.2	3.5	12.7	2.9	36.4	1.2	6.4	6.4
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	33	3.0	27.3	6.1	3.0	3.0	6.1	18.2	3.0	24.2	6.1
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	56	-	28.6	1.8	-	25.0	-	19.6	-	1.8	23.2
信州大学：センサ工学入門 (T)	930	1.0	72.5	3.9	1.0	3.9	0.6	-	16.7	0.1	0.4
信州大学：日本語セミナー (R)	140	2.1	23.6	2.1	1.4	15.7	1.4	23.6	23.6	4.3	2.1
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	100	1.0	36.0	4.0	8.0	4.0	6.0	20.0	1.0	17.0	3.0
名古屋大学：東海企業と経済 (R)	76	2.6	34.2	5.3	9.2	6.6	5.3	10.5	-	23.7	2.6
大阪大学：高温の科学 (T)	241	-	45.6	-	12.9	13.3	2.9	5.4	3.3	14.1	2.5
大阪大学：相互理解 (R)	148	-	31.8	0.7	12.8	11.5	0.7	19.6	2.7	14.9	5.4
広島大学：新しい材料を考える (T)	114	4.4	42.1	0.9	5.3	10.5	3.5	11.4	1.8	16.7	3.5
広島大学：法と文化 (R)	135	4.4	34.8	1.5	4.4	15.6	1.5	12.6	3.7	14.1	7.4
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	698	0.9	62.8	1.1	4.6	15.8	2.1	2.0	3.9	5.0	1.9
熊本大学：章と人間 (T)	116	6.9	16.4	-	2.6	4.3	-	44.0	0.9	23.3	1.7
熊本大学：地域に生きる (R)	218	8.7	22.0	-	4.1	6.0	1.4	27.1	-	28.4	2.3
琉球大学：工学における諸問題 (T)	50	-	32.0	4.0	6.0	12.0	2.0	2.0	36.0	4.0	2.0
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	-	52.9	-	8.8	2.9	8.8	14.7	-	8.8	2.9
(T) テレビ講座：全体	2831	1.4	53.8	2.5	4.2	9.0	2.4	7.7	7.9	8.5	2.6
(R) ラジオ講座：全体	1352	3.1	27.7	1.2	4.7	11.3	3.0	24.5	3.6	16.1	4.9

の「センサ工学入門」は72.5%が、愛媛大学の「情報科学」は62.8%が「事務・技術系」である。科学技術系の講座の多いテレビ講座だけで見ると、53.8%が「事務技術系」とさらに高率である。

### 5. 講座を知った媒体 (問5:表5参照)

放送公開講座を知った媒体としては、例年どおり「大学からの案内」の比率が41.0%で最も高い。ラジオ講座のみでは48.5%になる。

次に比率が高いのが講座全件では「テレビ」の15.1%であるが、ラジオ講座だけでみると、「大学からの案内」の次に比率の高いのは「市長村の広報」17.4%、次に高いのが「新聞」11.6%、次が「人の話」9.5%で、「テレビ」5.7%は5番目にしかすぎない。しかし、ラジオ講座の場合も、「ラジオ」3.0%に対して「テレビ」5.7%と、「テレビ」の比率のほうが高いことが注目される。

表5 講座を知った媒体 (%)

大学：講座名	件数	テレビ	ラジオ	新聞	市町村の広報	大学からの案内	人の話	その他
合計	4192	15.1	1.4	9.3	11.4	41.0	12.5	9.3
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	155	0.6	1.3	12.3	37.4	40.6	3.2	4.5
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	146	2.1	0.7	15.1	32.2	45.2	4.1	0.7
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	87	12.6	-	8.0	6.9	65.5	5.7	1.1
東北大学：中国の詩人たち (R)	228	10.1	3.1	8.8	4.4	67.1	5.7	0.9
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	313	47.0	2.2	5.1	12.5	24.0	7.3	1.9
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	175	10.9	4.0	4.0	17.1	33.7	24.0	6.3
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	33	33.3	3.0	12.1	3.0	39.4	6.1	3.0
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	59	5.1	3.4	13.6	5.1	55.9	8.5	8.5
信州大学：センサ工学入門 (T)	920	18.9	0.1	4.7	1.6	29.8	22.5	22.4
信州大学：日本語セミナー (R)	140	2.1	7.1	26.4	7.9	32.1	20.0	4.3
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	101	4.0	-	21.8	12.9	51.5	6.9	3.0
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	77	2.6	2.6	18.2	14.3	51.9	3.9	6.5
大阪大学：高温の科学 (T)	243	4.1	-	8.2	7.4	59.3	12.8	8.2
大阪大学：相互理解 (R)	149	2.0	-	8.7	14.8	57.7	5.4	11.4
広島大学：新しい材料を考える (T)	113	4.4	-	9.7	13.3	59.3	3.5	9.7
広島大学：法と文化 (R)	135	3.7	2.2	9.6	20.7	57.0	2.2	4.4
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	700	24.3	0.9	11.1	6.0	35.9	13.0	8.9
熊本大学：音と人間 (T)	116	7.8	1.7	3.4	30.2	42.2	10.3	4.3
熊本大学：地域に生きる (R)	219	5.5	2.7	3.2	32.4	43.8	8.7	3.7
琉球大学：工学における諸問題 (T)	49	24.5	-	14.3	-	30.6	20.4	10.2
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	11.8	8.8	50.0	11.8	11.8	5.9	-
(T) テレビ講座：全体	2830	19.6	0.7	8.2	8.6	37.5	14.0	11.6
(R) ラジオ講座：全体	1362	5.7	3.0	11.6	17.4	48.4	9.5	4.5

## 6. 受講の動機 (問6:表6参照)

受講の動機としては「テーマに関心があった」が48.6%と一番高く、1から4の受講生の諸属性にテーマが最も影響しているという推測を裏付ける形になっている。新潟大学「脳の発生とその障害」、「いまに生きる昔話」、金沢大学「乳幼児の発達」、愛媛大学「情報科学」、琉球大学「沖縄の民俗文化」でこの比率は60%を越えている。

二番目に比率が高いのは、「教養を高めるため」の24.7%で、北海道大学「北海道経済の地平をさぐる」、熊本大学「音と人間」、「地域に生きる」の3講座では、その比率は「テーマに関心があった」より高くなっている。

## 7. これまでの登録回数 (問7:表7参照)

今回も含めたこれまでの登録回数は、「1講座」が58.0%で最も高い。これに「今回テレビ・ラジオの2講座に登録」の9.3%を加えた67.3%が、放送公開講座に始めて登録した者の割合で

表6 受講動機 (%)

大学：講座名	件数	授業を受けた地元の大学教授の授業を受けてみたい	家庭で学習できる	教養を高めるため	関心があった	テーマに面白かったから	放送利用の大学公開講座を以前受講して	その他
合計	4194	5.6	8.6	24.7	48.6	8.8	3.7	
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	156	9.6	9.6	30.1	27.6	21.2	1.9	
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	146	7.5	13.0	23.3	42.5	12.3	1.4	
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	87	6.9	5.7	21.8	44.8	17.2	3.4	
東北大学：中国の詩人たち (R)	227	4.8	7.9	15.9	53.3	16.7	1.3	
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	312	4.5	7.7	9.9	63.8	9.0	5.1	
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	176	5.1	8.0	8.5	65.3	11.4	1.7	
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	33	3.0	15.2	18.2	45.5	12.1	6.1	
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	59	-	8.5	6.8	83.1	-	1.7	
信州大学：センサ工学入門 (T)	924	5.4	4.7	34.5	43.6	3.1	8.7	
信州大学：日本語セミナー (R)	139	5.8	13.7	21.6	45.3	11.5	2.2	
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	101	10.9	11.9	22.8	36.6	16.8	1.0	
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	77	11.7	10.4	23.4	40.3	14.3	-	
大阪大学：高温の科学 (T)	243	3.3	6.6	31.3	45.3	11.5	2.1	
大阪大学：相互理解 (R)	149	4.7	8.7	32.2	42.3	10.7	1.3	
広島大学：新しい材料を考える (T)	115	8.7	9.6	26.1	43.5	9.6	2.6	
広島大学：法と文化 (R)	137	8.0	12.4	27.7	35.8	14.6	1.5	
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	698	1.3	7.9	18.6	67.5	2.3	2.4	
熊本大学：音と人間 (T)	114	10.5	15.8	34.2	22.8	13.2	3.5	
熊本大学：地域に生きる (R)	218	12.4	17.9	30.3	22.9	15.1	1.4	
琉球大学：工学における諸問題 (T)	49	8.2	6.1	38.8	40.8	-	6.1	
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	-	8.8	20.6	64.7	2.9	2.9	
(T) テレビ講座：全体	2832	4.9	7.3	26.1	49.9	6.9	4.8	
(R) ラジオ講座：全体	1362	6.8	11.4	21.7	45.9	12.7	1.5	

表7 今回も含めた登録講座数

(%)

大学：講座名	件数	1講座	オの2講座にテレビ・ラジオの2講座(今回は1講座で)	かつて1講座(今回は2講座)	3講座	4講座	5講座	10講座以上	平均
合計	4202	58.0	9.3	9.5	7.2	4.4	9.6	2.1	2.3
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	156	28.2	9.6	9.6	14.1	9.0	26.3	3.2	3.7
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	146	28.8	11.6	13.0	11.6	6.8	24.0	4.1	3.6
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	87	17.2	17.2	9.2	13.8	11.5	26.4	4.6	4.0
東北大学：中国の詩人たち (R)	228	28.9	7.9	7.9	15.4	11.4	23.2	5.3	3.8
新潟大学：脳の発生とその覚悟 (T)	314	62.4	11.8	6.7	6.1	4.8	8.3	-	1.9
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	177	52.0	18.6	4.5	10.7	4.5	9.6	-	2.2
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	33	57.6	15.2	18.2	-	-	6.1	3.0	2.0
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	59	89.8	6.8	-	-	-	3.4	-	1.3
信州大学：センサ工学入門 (T)	926	70.7	8.2	17.6	2.8	0.3	0.1	0.2	1.4
信州大学：日本語セミナー (R)	139	79.1	6.5	9.4	5.0	-	-	-	1.3
名古屋大学：土人間とのかかわり (T)	101	13.9	19.8	8.9	17.8	16.8	20.8	2.0	3.6
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	77	23.4	16.9	10.4	13.0	11.7	23.4	1.3	3.4
大阪大学：高温の科学 (T)	243	50.6	9.5	7.0	8.6	6.2	14.4	3.7	2.8
大阪大学：相互理解 (R)	148	45.3	12.2	8.1	4.1	5.4	20.9	4.1	3.1
広島大学：新しい材料を考える (T)	115	27.8	16.5	10.4	13.9	7.8	13.9	9.6	3.7
広島大学：法と文化 (R)	137	28.5	16.1	10.9	10.2	8.0	17.5	8.8	3.7
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	698	92.6	1.4	3.2	2.6	0.3	-	-	1.1
熊本大学：音と人間 (T)	116	44.0	12.1	5.2	12.1	7.8	13.8	5.2	3.0
熊本大学：地域に生きる (R)	219	40.2	9.6	9.1	10.0	7.3	19.2	4.6	3.3
琉球大学：工学における諸問題 (T)	49	89.8	2.0	4.1	2.0	2.0	-	-	1.2
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	67.6	5.9	14.7	11.8	-	-	-	1.4
(T) テレビ講座：全体	2838	64.8	8.3	9.9	5.9	3.3	6.4	1.4	1.9
(R) ラジオ講座：全体	1364	43.8	11.5	8.7	9.8	6.5	16.3	3.4	2.9

ある。これをメディア別にみると、ラジオ講座55.3%に対してテレビ講座は73.1%で、科学技術系の講座の多いテレビ講座の方が初めての受講生を多く集めている。特に、四国地区の講座である愛媛大学「情報工学」は、「1講座」登録者だけで92.6%で注目される。

これに対して、5講座以上の登録者が東北大学「マテリアル・サイエンス」では31.0%と3割を越えており、また25%を越える講座がこの他に北海道大学、東北大学、広島大学に5講座あるなど、講座開設の古い大学では登録回数の多い受講生の比率が高い点が注目される。

## 8. 正式登録なしの回数（問8：表8参照）

「視聴したことがない」は63.6%であるから、逆に36.4%が正式登録なしに視聴した経験をもっていることになる。また、講座を通して視聴した者の比率は15.7%で、「全体を通してではないが視聴したことはある」の20.7%に近い比率になっている。

表8 正式登録なしの視聴講座数 (%)

大学：講座名	件数	1 ～ 2 講座	3 ～ 4 講座	5 講座 以上	あ い 全 体 を 通 し て で は な い が 視 聴 し た こ と は あ る	視 聴 し た こ と は な い
合 計	4152	10.2	3.2	2.3	20.7	63.6
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	153	9.2	2.6	3.9	19.6	64.7
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	145	8.3	2.8	5.5	18.6	64.8
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	85	12.9	3.5	3.5	23.5	56.5
東北大学：中国の詩人たち (R)	225	15.1	4.9	3.1	20.9	56.0
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	310	7.7	3.2	1.6	17.1	70.3
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	176	5.7	4.0	1.1	15.9	73.3
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	33	12.1	3.0	6.1	24.2	54.5
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	59	1.7	1.7	1.7	20.3	74.6
信州大学：センサ工学入門 (T)	925	13.9	3.1	0.9	19.8	62.3
信州大学：日本語セミナー (R)	139	10.8	3.6	0.7	17.3	67.6
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	99	11.1	6.1	3.0	20.2	59.6
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	72	11.1	1.4	4.2	20.8	62.5
大阪大学：高温の科学 (T)	239	10.5	1.7	2.5	17.2	68.2
大阪大学：相互理解 (R)	147	8.8	1.4	3.4	9.5	76.9
広島大学：新しい材料を考える (T)	114	11.4	6.1	6.1	25.4	50.9
広島大学：法と文化 (R)	134	10.4	5.2	6.0	26.9	51.5
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	693	6.5	2.2	0.1	25.7	65.5
熊本大学：音と人間 (T)	110	11.8	2.7	4.5	24.5	56.4
熊本大学：地域に生きる (R)	211	9.0	4.7	5.7	22.3	58.3
琉球大学：工学における諸問題 (T)	49	10.2	2.0	-	36.7	51.0
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	8.8	5.9	5.9	5.9	73.5
(T) テレビ講座：全体	2810	10.5	3.0	1.6	21.6	63.3
(R) ラジオ講座：全体	1342	9.6	3.7	3.7	18.8	64.2

## 9. 予備知識 (問9: 表9参照)

予備知識については、「ややあった」の比率41.6%で最も高い。しかし、「全くなかった」と「あまりなかった」の合計は48.7%で、ほぼ半数になる。また、講座ごとのばらつきも大きい。

表9 講座内容に対する予備知識 (%)

大学：講座名	件数	全くなかった	あまりなかった	ややあった	かなりあった	非常にあった	平均
合計	4196	18.3	30.4	41.6	8.7	1.0	1.4
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	156	24.4	34.0	37.8	3.2	0.6	1.2
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	145	20.7	23.4	40.0	13.1	2.8	1.5
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	87	27.6	35.6	34.5	2.3	-	1.1
東北大学：中国の詩人たち (R)	228	10.5	35.5	46.9	6.6	0.4	1.5
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	314	24.2	28.7	35.0	10.8	1.3	1.4
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	177	14.1	32.2	43.5	8.5	1.7	1.5
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	33	15.2	36.4	36.4	9.1	3.0	1.5
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	59	6.8	6.8	55.9	27.1	3.4	2.1
信州大学：センサ工学入門 (T)	927	15.1	28.9	48.4	6.9	0.6	1.5
信州大学：日本語セミナー (R)	138	28.3	32.6	26.8	10.1	2.2	1.3
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	101	25.7	29.7	28.7	13.9	2.0	1.4
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	77	16.9	28.6	39.0	13.0	2.6	1.5
大阪大学：高温の科学 (T)	242	11.6	24.4	47.1	15.3	1.7	1.7
大阪大学：相互理解 (R)	146	19.2	32.2	38.4	10.3	-	1.4
広島大学：新しい材料を考える (T)	115	20.0	34.8	36.5	8.7	-	1.3
広島大学：法と文化 (R)	137	21.2	40.1	30.7	7.3	0.7	1.3
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	700	14.7	31.3	45.0	8.4	0.6	1.5
熊本大学：音と人間 (T)	115	42.6	29.6	20.9	5.2	1.7	0.9
熊本大学：地域に生きる (R)	216	25.0	29.6	39.4	6.0	-	1.3
琉球大学：工学における諸問題 (T)	49	6.1	30.6	59.2	4.1	-	1.6
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	14.7	50.0	26.5	5.9	2.9	1.3
(T) テレビ講座：全体	2839	18.1	30.0	42.7	8.3	0.8	1.4
(R) ラジオ講座：全体	1357	18.5	31.4	39.4	9.5	1.3	1.4

## 10. 学校卒業後の学習経験 (問10: 表10参照)

学校卒業後の継続的な学習経験については、「特に学習したことがない」が33.8%で最も多く、放送公開講座が新たな学習機会を生み出していることが示されている。

継続的な学習の経験者の内では「NHK や民間放送の番組」が21.5%で第1位であり、メディアでの学習経験者の比率が高いことが注目される。第2位が「社会教育機関」13.1%、第3位が「自主的学習グループへの参加」9.5%で、「放送公開講座」は6.8%、第4位であるが、放送公開講座が各地域にとっては年間1から2講座、1クールしか実施されていないことを考慮に入れると、これも相当に高い比率といえよう。

表10 学校卒業後の継続的な学習の経験 (%)

大学：講座名	件数	放送公開講座	NHKや民間放送の番組	大学の公開講座	社会教育機関（公民館・図書館等）	カルチャー・センター等	への参加	自主的学習グループ	特に継続的に学習したことはない	その他
合計	4170	6.8	21.5	3.9	13.1	3.1	9.5	33.8	8.2	
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	155	14.2	23.9	8.4	15.5	3.9	5.8	22.6	5.8	
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	146	9.6	26.7	6.2	13.7	2.7	10.3	24.7	6.2	
東北大学：マリアル・サイエンス (T)	87	19.5	27.6	4.6	9.2	4.6	2.3	27.6	4.6	
東北大学：中国の詩人たち (R)	227	12.3	25.6	6.2	13.2	6.2	11.0	22.0	3.5	
新潟大学：脳の発生とその歴史 (T)	313	4.8	25.2	2.6	17.9	2.6	12.5	26.8	7.7	
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	176	6.3	16.5	4.5	20.5	1.7	21.0	25.6	4.0	
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	33	9.1	33.3	3.0	21.2	-	3.0	24.2	6.1	
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	57	1.8	24.6	-	14.0	5.3	15.8	24.6	14.0	
信州大学：センサ工学入門 (T)	910	3.0	16.8	1.4	6.6	1.3	7.8	49.8	13.3	
信州大学：日本語セミナー (R)	136	3.7	20.6	0.7	17.6	5.1	11.0	34.6	6.6	
名古屋大学：土一人間とのかわり (T)	101	14.9	25.7	5.0	14.9	4.0	8.9	21.8	5.0	
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	76	9.2	30.3	7.9	11.8	3.9	5.3	25.0	6.6	
大阪大学：高温の科学 (T)	243	7.8	29.6	8.6	8.6	2.5	5.8	24.7	12.3	
大阪大学：相互理解 (R)	149	6.7	31.5	12.1	12.1	6.7	7.4	17.4	6.0	
広島大学：新しい材料を考える (T)	114	18.4	22.8	9.6	11.4	4.4	0.9	24.6	7.9	
広島大学：法と文化 (R)	137	19.0	22.6	5.8	18.2	3.6	8.8	16.1	5.8	
愛媛大学：情報科学・パソコンと人工知能 (T)	697	1.7	20.4	2.3	8.3	3.4	10.5	45.1	8.3	
熊本大学：音と人間 (T)	116	7.8	14.7	3.4	24.1	3.4	13.8	30.2	2.6	
熊本大学：地域に生きる (R)	215	9.8	10.2	1.4	32.6	1.4	13.0	29.3	2.3	
琉球大学：工学における諸問題 (T)	48	-	20.8	-	20.8	2.1	8.3	35.4	12.5	
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	2.9	26.5	2.9	17.6	14.7	5.9	20.6	8.8	
(T) テレビ講座：全体	2817	5.7	21.2	3.4	10.6	2.6	8.5	38.3	9.6	
(R) ラジオ講座：全体	1353	9.2	22.2	5.0	18.2	4.2	11.7	24.3	5.2	

11. 番組の視聴状況（問11-a：表11参照）

番組の視聴状況については、録画・録音物の視聴を含めての視聴回数が「12回以上」が31.2%で最も高い。新潟大学「脳の発生とその障害」の「12回以上」の比率が53.2%と、過半数を越えていることが注目される。

表11 番組の視聴状況 (%)

大学：講座名	件数	2回以下	3～5回	6～8回	9～11回	12回以上	平均
合計	4129	10.1	17.6	15.5	25.6	31.2	8.5
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	153	2.6	5.9	12.4	31.4	47.7	10.4
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	145	5.5	10.3	12.4	24.8	46.9	10.0
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	86	4.7	20.9	12.8	18.6	43.0	9.1
東北大学：中国の詩人たち (R)	224	4.9	11.2	12.5	29.5	42.0	9.8
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	299	1.7	7.4	11.0	26.8	53.2	10.6
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	170	5.9	9.4	10.6	32.4	41.8	9.8
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	32	-	25.0	21.9	28.1	25.0	8.5
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	56	12.5	26.8	19.6	30.4	10.7	7.0
信州大学：センサ工学入門 (T)	919	21.7	29.5	19.9	18.0	11.0	6.0
信州大学：日本語セミナー (R)	137	17.5	24.8	17.5	20.4	19.7	7.0
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	100	5.0	7.0	13.0	37.0	38.0	9.8
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	77	3.9	9.1	5.2	33.8	48.1	10.3
大阪大学：高温の科学 (T)	241	3.7	12.9	10.4	29.0	44.0	9.9
大阪大学：相互理解 (R)	144	10.4	14.6	10.4	31.3	33.3	8.9
広島大学：新しい材料を考える (T)	114	5.3	18.4	21.9	23.7	30.7	8.8
広島大学：法と文化 (R)	134	7.5	18.7	18.7	30.6	24.6	8.5
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	696	4.7	15.4	17.0	24.9	38.1	9.3
熊本大学：音と人間 (T)	110	22.7	17.3	15.5	29.1	15.5	7.0
熊本大学：地域に生きる (R)	211	14.7	17.5	13.3	33.2	21.3	7.9
琉球大学：工学における諸問題 (T)	47	4.3	31.9	17.0	21.3	25.5	8.0
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	11.8	5.9	32.4	23.5	26.5	8.4
(T) テレビ講座：全体	2797	10.4	18.9	16.4	23.8	30.4	8.3
(R) ラジオ講座：全体	1332	9.2	14.8	13.7	29.4	32.9	8.9

## 12. 番組視聴を継続しなかった理由（問11-b：表12参照）

この項目は今年度に初めて加えられた新項目である。今回のアンケートでは、番組視聴を継続できなかった理由としては、全体でみるかぎり「内容が難しすぎた」4.0%、「内容がやさしすぎた」0.3%、「内容が期待したものとは違っていった」5.8%と、内容に関する理由をあげた者の比率は低い。

最も比率の高いのは「時間帯があわなかった」の49.7%であり、これに「時間がとれなかった」32.8%を合わせると、82.5%の者が「時間」を継続視聴できなかった理由にあげている。

表12 番組の視聴を継続しなかった理由 (%)

大学：講座名	件数	時間がとれなかった	放送時間帯があわなかった	難しすぎた	内容がやさしすぎた	内容が期待していったものと違っていった	その他
合計	1769	32.8	49.7	4.0	0.3	5.8	7.3
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	34	35.3	44.1	-	-	2.9	17.6
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	39	41.0	23.1	-	-	23.1	12.8
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	29	51.7	24.1	17.2	-	-	6.9
東北大学：中国の詩人たち (R)	62	41.9	33.9	-	1.6	6.5	16.1
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	66	39.4	54.5	1.5	-	-	4.5
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	43	44.2	39.5	2.3	-	2.3	11.6
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	17	35.3	47.1	-	-	5.9	11.8
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	34	32.4	47.1	-	2.9	11.8	5.9
信州大学：センサ工学入門 (T)	650	27.5	61.8	2.5	0.6	3.8	3.7
信州大学：日本語セミナー (R)	75	29.3	58.7	5.3	-	2.7	4.0
名古屋大学：土・人間とのかかわり (T)	26	50.0	23.1	7.7	-	3.8	15.4
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	16	56.3	25.0	-	-	6.3	12.5
大阪大学：高温の科学 (T)	63	34.9	47.6	1.6	-	1.6	14.3
大阪大学：相互理解 (R)	49	32.7	49.0	-	-	4.1	14.3
広島大学：新しい材料を考える (T)	51	27.5	49.0	2.0	-	13.7	7.8
広島大学：法と文化 (R)	54	29.6	50.0	5.6	-	5.6	9.3
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	266	26.7	45.9	11.3	-	11.3	4.9
熊本大学：音と人間 (T)	62	48.4	30.6	6.5	-	9.7	4.8
熊本大学：地域に生きる (R)	91	45.1	34.1	1.1	-	4.4	15.4
琉球大学：工学における諸問題 (T)	26	23.1	50.0	7.7	-	3.8	15.4
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	16	68.8	18.8	-	-	-	12.5
(T) テレビ講座：全体	1290	30.5	52.9	4.8	0.3	5.7	5.7
(R) ラジオ講座：全体	479	39.0	40.9	1.9	0.4	6.3	11.5

13. 録音・録画回数 (問12-a : 表13参照)

録音・録画に関しては、回答者総数4,224人のうち2,470人、58.5%が録画または録音をしている。

テレビ講座については、総数2,853人のうち1785人、62.6%が録画をしており、この比率は昨年の54.2%より高い。この数値は、昭和58年度26.8%、昭和59年度32.3%、昭和60年度51.5%、昭和61年度52.1%と着実に増えてきている。

録画した者のうちでは、「12回以上」が36.2%と、大部分を録画する者の比率が最も高くなっている。

ラジオ講座では、総数1,371人のうち685人、50.0%が録音している。この比率は、昨年の55.1%より幾分低目である。ラジオ講座の場合も、「12回以上」の比率が最も高いが、その割合は29.9%で、「3～5回」の24.1%に近い比率になっている。

表13 録画、録音回数 (%)

大学：講座名	件数	1 ～ 2 回	3 ～ 5 回	6 ～ 8 回	9 ～ 11 回	12 回 以上	平均
合 計	2470	13.6	20.6	11.5	19.8	34.5	8.2
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	88	12.5	22.7	13.6	27.3	23.9	7.8
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	69	27.5	24.6	13.0	10.1	24.6	6.6
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	38	10.5	21.1	10.5	26.3	31.6	8.3
東北大学：中国の詩人たち (R)	122	16.4	22.1	13.9	15.6	32.0	7.8
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	192	5.2	14.1	8.9	23.4	48.4	9.8
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	101	17.8	17.8	4.0	19.8	40.6	8.5
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	25	12.0	48.0	-	20.0	20.0	6.6
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	34	23.5	38.2	17.6	14.7	5.9	5.4
信州大学：センサ工学入門 (T)	510	18.8	22.5	15.1	18.6	24.9	7.3
信州大学：日本語セミナー (R)	74	16.2	23.0	13.5	6.8	40.5	7.8
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	70	7.1	30.0	15.7	20.0	27.1	7.7
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	50	10.0	30.0	10.0	20.0	30.0	7.9
大阪大学：高温の科学 (T)	174	5.2	10.3	8.6	29.3	46.6	10.1
大阪大学：相互理解 (R)	72	22.2	18.1	2.8	25.0	31.9	7.9
広島大学：新しい材料を考える (T)	64	17.2	23.4	10.9	17.2	31.3	7.7
広島大学：法と文化 (R)	62	6.5	32.3	8.1	22.6	30.6	8.1
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	552	7.1	16.3	11.4	19.7	45.5	9.4
熊本大学：音と人間 (T)	34	35.3	17.6	8.8	20.6	17.6	6.3
熊本大学：地域に生きる (R)	78	33.3	24.4	11.5	12.8	17.9	5.7
琉球大学：工学における諸問題 (T)	38	7.9	31.6	10.5	21.1	28.9	8.1
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	23	21.7	26.1	21.7	8.7	21.7	6.4
(T) テレビ講座：全体	1785	11.4	19.3	11.9	21.2	36.2	8.5
(R) ラジオ講座：全体	685	19.4	24.1	10.5	16.1	29.9	7.4

14. 録音・録画した理由（問12-b：表14参照）

この質問項目は、今年度の新項目である。録音・録画をした理由のトップの比率を占めるのは「放送時間帯に視聴できなかった」の55.8%で、これに比率第3位の「好きな時間に視聴したかった」の10.6%を加えると、66.4%の者が、時間的な制約の克服のために録音・録画を行っている。

テレビ講座、ラジオ講座とも傾向はほぼ同じであるが、テレビのほうがやや時間的なことを理由にあげる者の比率が高い。

録音・録画理由の比率第2位は「繰り返し視聴したかった」の21.3%である。そして、この比率はテレビ講座が16.7%であるのに対して、ラジオ講座が33.5%とかなり高くなっている。また、北海道大学「豊かな人間性の創造」、東北大学「中国の詩人たち」、新潟大学「いまに生きる昔話」では、これが「放送時間帯に視聴できなかった」よりも幾分高い比率になっている。

表14 録画、録音した理由 (％)

大学：講座名	件数	視聴できなかった	放送時間帯に視聴したかった	好きな時間に視聴したかった	繰り返し視聴したかった	おきたかった	保存しておきたかった	視聴させたかった	他の人にも良くなかった	自宅の受信状態が	その他
合計	2405	55.8	10.6	21.3	8.0	2.4	0.8	1.0			
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	87	59.8	13.8	18.4	6.9	1.1	-	-			
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	67	35.8	10.4	46.3	3.0	3.0	1.5	-			
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	37	45.9	18.9	24.3	2.7	2.7	-	5.4			
東北大学：中国の詩人たち (R)	115	35.7	15.7	38.3	6.1	3.5	0.9	-			
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	179	53.6	4.5	24.6	12.3	2.2	0.6	2.2			
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	100	32.0	9.0	35.0	12.0	6.0	5.0	1.0			
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	23	65.2	4.3	13.0	8.7	8.7	-	-			
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	33	63.6	6.1	15.2	6.1	6.1	-	3.0			
信州大学：センサ工学入門 (T)	503	78.7	4.8	8.3	6.2	1.4	-	0.6			
信州大学：日本語セミナー (R)	73	53.4	4.1	30.1	8.2	2.7	-	1.4			
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	69	55.1	14.5	17.4	11.6	-	-	1.4			
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	48	45.8	14.6	35.4	2.1	-	-	2.1			
大阪大学：高温の科学 (T)	169	43.2	17.8	20.1	11.2	5.3	0.6	1.8			
大阪大学：相互理解 (R)	69	37.7	11.6	30.4	13.0	2.9	4.3	-			
広島大学：新しい材料を考える (T)	64	64.1	9.4	15.6	6.3	3.1	1.6	-			
広島大学：法と文化 (R)	61	44.3	3.3	36.1	6.6	3.3	4.9	1.6			
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	541	53.2	14.2	20.5	9.2	2.0	-	0.7			
熊本大学：音と人間 (T)	32	81.3	9.4	9.4	-	-	-	-			
熊本大学：地域に生きる (R)	74	56.8	13.5	23.0	2.7	-	2.7	1.4			
琉球大学：工学における諸問題 (T)	38	50.0	23.7	18.4	5.3	-	-	2.6			
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	23	34.8	4.3	34.8	8.7	4.3	8.7	4.3			
(T) テレビ講座：全体	1742	60.9	10.7	16.7	8.3	2.1	0.2	1.0			
(R) ラジオ講座：全体	663	42.5	10.1	33.5	7.1	3.2	2.6	1.1			

15. テキストの予習 (問13-a : 表15参照)

今年度は、例年度と比べてテキストで予習した者の比率がやや低目である。昨年度と今年度を比べると、「全くしなかった」が昨年度9.8%、今年度19.8%、「ほとんどしなかった」が15.0%対9.8%と、今年度のほうが予習をしなかった者の比率が高い。

一方、「少しした」は昨年度35.9%、今年度33.2%、「大体した」は24.8%、17.5%で、「毎回した」は14.4%、9.3%と、今年度は「毎回した」と答えた者の比率が過去6年間で初めて一桁の比率になっている。

またテレビ講座とラジオ講座を比べると、「全くしなかった」がテレビ24.6%、ラジオ9.6%、「毎回した」6.0%、16.3%と、テレビ講座の方に予習をしていない者の比率が高い。これら背景には、今年度の放送公開講座、特にテレビ講座が比較的若い有職者を多く受講生にしている点があると考えられる。

表15 テキストの予習 (%)

大学：講座名	件数	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しした	大体した	毎回した	平均
合計	4102	19.8	20.2	33.2	17.5	9.3	1.8
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	154	5.8	15.6	34.4	26.6	17.5	2.3
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	143	8.4	10.5	34.3	27.3	19.6	2.4
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	86	8.1	26.7	32.6	20.9	11.6	2.0
東北大学：中国の詩人たち (R)	225	3.6	13.3	30.2	28.4	24.4	2.6
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	301	10.6	15.3	39.5	22.3	12.3	2.1
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	175	8.0	12.0	24.6	33.1	22.3	2.5
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	32	15.6	21.9	28.1	25.0	9.4	1.9
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	59	16.9	11.9	33.9	23.7	13.6	2.0
信州大学：センサ工学入門 (T)	914	44.9	26.8	23.5	3.5	1.3	0.9
信州大学：日本語セミナー (R)	134	22.4	15.7	34.3	18.7	9.0	1.8
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	99	10.1	12.1	40.4	28.3	9.1	2.1
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	75	9.3	6.7	37.3	33.3	13.3	2.3
大阪大学：高温の科学 (T)	237	21.9	24.1	32.1	17.7	4.2	1.6
大阪大学：相互理解 (R)	143	14.0	17.5	28.7	23.8	16.1	2.1
広島大学：新しい材料を考える (T)	115	8.7	26.1	33.9	21.7	9.6	2.0
広島大学：法と文化 (R)	134	5.2	26.9	34.3	23.1	10.4	2.1
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	693	16.5	23.4	42.3	12.4	5.5	1.7
熊本大学：音と人間 (T)	100	25.0	17.0	32.0	15.0	11.0	1.7
熊本大学：地域に生きる (R)	200	9.0	16.5	38.0	24.0	12.5	2.1
琉球大学：工学における諸問題 (T)	49	22.4	18.4	42.9	16.3	-	1.5
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	2.9	8.8	55.9	29.4	2.9	2.2
(T) テレビ講座：全体	2780	24.6	22.7	33.3	13.3	6.0	1.5
(R) ラジオ講座：全体	1322	9.6	14.8	33.0	26.3	16.3	2.2

16. 視聴中のノートやメモ（問13-b：表16参照）

視聴中のノートやメモについても、今年度は例年に比べて取った者の割合が低い。昨年度と今年度を比べると、「全くしなかった」が昨年度18.0%、今年度32.8%、「ほとんどしなかった」が15.3%対19.1%と、今年度のほうが予習をしなかった者の比率が高い。

一方、「少しした」は昨年度33.8%、今年度26.8%、「大体した」は18.8%、12.1%で、「毎回した」は14.1%、9.2%と、今年度は「毎回した」と答えた者の比率が過去6年間で初めて一桁の比率になっている。

またテレビ講座とラジオ講座を比べると、「全くしなかった」がテレビ38.3%、ラジオ21.0%、「毎回した」6.2%、15.7%と、テレビ講座の方に予習をしていない者の比率が高い。これらの背景には、今年度の放送公開講座、特にテレビ講座が比較的若い有職者を多く受講生にしている点があると考えられる。

表16 視聴中のノートやメモ (%)

大学：講座名	件数	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しした	大体した	毎回した	平均
合計	4066	32.8	19.1	26.8	12.1	9.2	1.5
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	150	16.7	16.7	32.0	18.0	16.7	2.0
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	141	19.1	14.9	29.1	19.9	17.0	2.0
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	85	16.5	17.6	32.9	18.8	14.1	2.0
東北大学：中国の詩人たち (R)	224	10.7	10.7	32.6	21.9	24.1	2.4
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	300	30.7	16.0	30.0	14.0	9.3	1.5
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	173	33.5	17.3	27.7	9.2	12.1	1.5
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	32	34.4	15.6	18.8	18.8	12.5	1.6
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	56	37.5	16.1	28.6	8.9	8.9	1.4
信州大学：センサ工学入門 (T)	909	48.3	25.3	18.9	5.2	2.3	0.9
信州大学：日本語セミナー (R)	135	27.4	14.8	32.6	12.6	12.6	1.7
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	97	17.5	11.3	39.2	20.6	11.3	2.0
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	74	17.6	21.6	28.4	17.6	14.9	1.9
大阪大学：高温の科学 (T)	235	34.9	22.1	28.9	9.8	4.3	1.3
大阪大学：相互理解 (R)	141	31.2	18.4	30.5	9.9	9.9	1.5
広島大学：新しい材料を考える (T)	115	19.1	19.1	33.0	17.4	11.3	1.8
広島大学：法と文化 (R)	133	16.5	18.8	31.6	19.5	13.5	1.9
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	683	46.3	20.8	23.0	5.7	4.2	1.0
熊本大学：音と人間 (T)	103	28.2	14.6	24.3	19.4	13.6	1.8
熊本大学：地域に生きる (R)	197	12.2	11.2	31.5	26.9	18.3	2.3
琉球大学：工学における諸問題 (T)	49	20.4	32.7	28.6	10.2	8.2	1.5
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	14.7	2.9	47.1	20.6	14.7	2.2
(T) テレビ講座：全体	2758	38.3	21.1	24.8	9.6	6.2	1.2
(R) ラジオ講座：全体	1308	21.0	14.8	31.0	17.4	15.7	1.9

17. 視聴後の復習（問13- c：表17参照）

この質問項目は、今年度の新規項目である。これによると、「毎回した」者の比率こそ4.6%と低い、これに「大体した」の12.5%と「少しした」の32.7%を合わせると約半数（46.8%）の受講生が何等かの復習を視聴後に行っている。

特にラジオ講座では、58.5%の者が復習をしている。

表17 視聴後の復習 (%)

大学：講座名	件数	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しした	大体した	毎回した	平均
合計	4062	26.3	23.8	32.7	12.5	4.6	1.5
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	151	9.9	25.8	40.4	19.2	4.6	1.8
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	142	12.7	27.5	35.2	19.7	4.9	1.8
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	84	20.2	34.5	27.4	10.7	7.1	1.5
東北大学：中国の詩人たち (R)	223	10.8	19.3	37.2	20.2	12.6	2.0
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	304	11.5	19.1	37.2	21.4	10.9	2.0
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	174	20.1	19.5	36.8	16.7	6.9	1.7
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	32	25.0	18.8	28.1	15.6	12.5	1.7
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	57	36.8	21.1	29.8	12.3	-	1.2
信州大学：センサ工学入門 (T)	914	46.8	26.5	21.8	3.6	1.3	0.9
信州大学：日本語セミナー (R)	134	30.6	21.6	34.3	9.7	3.7	1.3
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	97	15.5	28.9	27.8	21.6	6.2	1.7
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	74	12.2	10.8	31.1	32.4	13.5	2.2
大阪大学：高温の科学 (T)	235	25.5	23.8	31.9	15.7	3.0	1.5
大阪大学：相互理解 (R)	140	20.7	20.7	37.1	13.6	7.9	1.7
広島大学：新しい材料を考える (T)	114	21.9	25.4	35.1	12.3	5.3	1.5
広島大学：法と文化 (R)	132	21.2	28.8	29.5	12.9	7.6	1.6
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	684	25.1	23.0	41.4	8.8	1.8	1.4
熊本大学：音と人間 (T)	98	31.6	27.6	25.5	14.3	1.0	1.3
熊本大学：地域に生きる (R)	190	21.6	24.7	37.4	13.2	3.2	1.5
琉球大学：工学における諸問題 (T)	49	20.4	20.4	38.8	16.3	4.1	1.6
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	20.6	23.5	32.4	17.6	5.9	1.6
(T) テレビ講座：全体	2762	29.5	24.7	31.6	10.7	3.5	1.3
(R) ラジオ講座：全体	1300	19.5	22.1	35.1	16.4	7.0	1.7

18. 視聴内容についての話し合い（問13-d：表18参照）

この質問項目は、今年度新規に設定された項目である。これによると、「全くしなかった」の比率が45.9%で最も高く、「ほとんどしなかった」の18.6%を加えると、64.5%が話し合いをしていない。

しかし、比率の第2位は「少しした」の28.6%であり、「毎回した」と答えた者も1.7%と低いながらも存在する。

表18 視聴内容についての話し合い (%)

大学：講座名	件数	全くしなかった	ほとんどしなかった	少しした	大体した	毎回した	平均
合計	4037	45.9	18.6	28.6	5.2	1.7	1.0
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	150	42.0	23.3	26.7	6.7	1.3	1.0
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	141	41.1	16.3	31.9	7.1	3.5	1.1
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	84	67.9	16.7	13.1	1.2	1.2	0.5
東北大学：中国の詩人たち (R)	219	52.1	15.1	26.9	3.7	2.3	0.9
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	300	35.0	14.7	39.0	7.7	3.7	1.3
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	174	29.9	12.6	45.4	10.3	1.7	1.4
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	31	54.8	9.7	25.8	9.7	-	0.9
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	58	31.0	13.8	43.1	6.9	5.2	1.4
信州大学：センサ工学入門 (T)	909	44.9	24.3	26.0	3.7	1.1	0.9
信州大学：日本語セミナー (R)	132	37.9	16.7	36.4	6.1	3.0	1.2
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	98	51.0	20.4	23.5	4.1	1.0	0.8
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	74	55.4	17.6	20.3	2.7	4.1	0.8
大阪大学：高温の科学 (T)	232	51.7	16.4	26.7	5.2	-	0.9
大阪大学：相互理解 (R)	140	49.3	12.1	30.7	6.4	1.4	1.0
広島大学：新しい材料を考える (T)	114	43.9	25.4	29.8	0.9	-	0.9
広島大学：法と文化 (R)	132	49.2	25.0	22.0	1.5	2.3	0.8
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	679	54.2	15.9	24.4	4.4	1.0	0.8
熊本大学：音と人間 (T)	98	38.8	16.3	33.7	9.2	2.0	1.2
熊本大学：地域に生きる (R)	189	40.7	19.6	28.6	8.5	2.6	1.1
琉球大学：工学における諸問題 (T)	49	30.6	24.5	36.7	8.2	-	1.2
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	47.1	11.8	32.4	8.8	-	1.0
(T) テレビ講座：全体	2744	47.0	19.7	27.3	4.8	1.2	0.9
(R) ラジオ講座：全体	1293	43.3	16.4	31.6	6.2	2.6	1.1

19. スクーリングへの出席状況（問14-a：表19参照）

この質問項目は、今年度の新規項目である。これによると、スクーリングに全く出席しなかった者の比率は50.9%で約半教いる。

テレビ講座とラジオ講座の比較では、テレビ55.4%、ラジオ41.5%でややテレビのほうが不参加者の比率が高い。

表19 スクーリングへの出席状況 (%)

大学：講座名	件数	0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回
合計	4224	50.9	25.4	13.6	8.1	1.9	0.1	0.1
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	156	23.7	10.9	26.3	39.1	-	-	-
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	146	24.0	16.4	34.9	24.7	-	-	-
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	87	41.4	13.8	17.2	12.6	14.9	-	-
東北大学：中国の詩人たち (R)	228	33.3	16.2	13.6	21.1	15.8	-	-
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	316	53.2	23.4	23.4	-	-	-	-
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	177	50.3	24.9	18.6	5.1	1.1	-	-
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	33	48.5	27.3	9.1	15.2	-	-	-
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	59	62.7	18.6	11.9	6.8	-	-	-
信州大学：センサ工学入門 (T)	933	60.6	26.2	11.8	0.5	0.2	0.2	0.5
信州大学：日本語セミナー (R)	141	63.8	22.0	8.5	2.8	1.4	1.4	-
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	102	33.3	8.8	13.7	19.6	24.5	-	-
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	77	26.0	10.4	22.1	41.6	-	-	-
大阪大学：高温の科学 (T)	243	65.0	35.0	-	-	-	-	-
大阪大学：相互理解 (R)	149	52.3	47.7	-	-	-	-	-
広島大学：新しい材料を考える (T)	115	23.5	28.7	22.6	25.2	-	-	-
広島大学：法と文化 (R)	137	19.7	21.2	33.6	25.5	-	-	-
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	702	64.2	34.6	1.1	-	-	-	-
熊本大学：音と人間 (T)	116	52.6	18.1	23.3	6.0	-	-	-
熊本大学：地域に生きる (R)	222	48.2	20.3	18.9	12.6	-	-	-
琉球大学：工学における諸問題 (T)	50	54.0	26.0	12.0	8.0	-	-	-
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	35	28.6	31.4	28.6	11.4	-	-	-
(T) テレビ講座：全体	2853	55.4	26.6	11.4	5.0	1.4	0.1	0.2
(R) ラジオ講座：全体	1371	41.5	22.7	18.2	14.6	2.9	0.1	-

20. スクーリングに全く出席しなかった理由（問14-b：表20参照）

スクーリングに全く出席しなかった理由については、70.7%の者が「スクーリングに出席する時間がなかった」と答えており、また11.9%の者が「スクーリング会場が遠くて出席できなかった」と、時間的、場所的な障害を理由にあげている。

「放送番組とテキスト又はその一方ですぐに十分学習できた」と、スクーリング自体が不要だったとする者は5.8%と低風率である。ただし、熊本大学「地域に生きる」の19.8%や琉球大学「沖縄の民俗文化」20.0%のように、講座によってはそれを理由とする者の比率が高い講座もあり、注目される。

「現在のスクーリングには魅力を感じなかった」と、実施されているスクーリングに批判的な回答の比率は全体では2.6%になる。しかし、この回答については比率0%の講座が大部分である。

表20 全く出席しなかった理由 (%)

大学：講座名	件数	放送番組とテキスト又はその一方ですぐに十分学習できた	遠くて出席できなかった	スクーリング会場がなかった	スクーリングに出席する時間がなかった	現在のスクーリングには魅力を感じなかった	その他
合計	2008	5.8	11.9	70.7	2.6	9.0	
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	32	-	18.8	56.3	-	25.0	
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	32	9.4	18.8	68.8	-	3.1	
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	35	2.9	17.1	62.9	-	17.1	
東北大学：中国の詩人たち (R)	69	2.9	15.9	72.5	-	8.7	
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	158	7.0	26.6	58.2	1.3	7.0	
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	82	3.7	20.7	69.5	-	6.1	
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	15	6.7	13.3	80.0	-	-	
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	33	12.1	12.1	60.6	3.0	12.1	
信州大学：センサ工学入門 (T)	526	3.8	8.9	75.3	4.4	7.6	
信州大学：日本語セミナー (R)	86	7.0	9.3	75.6	1.2	7.0	
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	30	3.3	13.3	73.3	-	10.0	
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	20	5.0	15.0	80.0	-	-	
大阪大学：高温の科学 (T)	151	11.3	14.6	59.6	2.0	12.6	
大阪大学：相互理解 (R)	67	10.4	10.4	64.2	1.5	13.4	
広島大学：新しい材料を考える (T)	24	4.2	-	75.0	4.2	16.7	
広島大学：法と文化 (R)	24	8.3	-	79.2	-	12.5	
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	436	2.5	5.0	80.5	3.4	8.5	
熊本大学：音と人間 (T)	56	5.4	21.4	60.7	1.8	10.7	
熊本大学：地域に生きる (R)	96	19.8	17.7	46.9	3.1	12.5	
琉球大学：工学における諸問題 (T)	26	7.7	-	88.5	3.8	-	
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	10	20.0	20.0	50.0	10.0	-	
(T) テレビ講座：全体	1489	4.6	10.9	72.4	3.1	9.0	
(R) ラジオ講座：全体	519	9.4	14.5	65.9	1.3	8.9	

## 21. 受講した感想（問15：表21参照）

受講後の感想については、「期待はずれの点もあるが受講してよかった」と、まずまずの評価を下す者比率が45.2%で最も高い。比率の第2位は「期待どおりで満足した」の36.0%、第3位は「期待以上で満足した」の11.9%で、満足したと答えた者の合計は93.1%になる。

ただし、この比率は講座ごとに違っており、また受講生数の多い講座では感想にバラツキが大きいという傾向もある。

ちなみに、「期待以上で満足した」と答えた者の比率が20%を越えている講座は、東北大学「中国の詩人たち」22.1%、新潟大学「脳の発生とその障害」28.9%、新潟大学「いまに生きる昔話」35.0%、琉球大学「沖縄の民俗文化」23.5%である。

表21 受講した感想 (%)

大学：講座名	件数	大変満足した	期待していた以上で満足した	期待どおりで満足した	点もあるが受講してよかった	期待はずれの点が多く不満だった	期待はずれだった	全く期待はずれ	平均
合計	4103	11.9	36.0	45.2	5.5	1.4		2.5	
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	156	12.2	55.1	32.1	0.6	-		2.8	
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	146	11.0	45.2	41.1	2.7	-		2.6	
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	84	17.9	42.9	34.5	3.6	1.2		2.7	
東北大学：中国の詩人たち (R)	222	22.1	55.0	20.3	1.4	1.4		3.0	
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	311	28.9	43.7	26.7	0.3	0.3		3.0	
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	177	35.0	48.0	16.4	0.6	-		3.2	
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	33	6.1	57.6	36.4	-	-		2.7	
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	58	10.3	44.8	39.7	3.4	1.7		2.6	
信州大学：センサ工学入門 (T)	880	4.2	23.3	56.8	12.2	3.5		2.1	
信州大学：日本語セミナー (R)	135	9.6	40.0	47.4	3.0	-		2.6	
名古屋大学：土・人間とのかかわり (T)	98	10.2	44.9	41.8	3.1	-		2.6	
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	76	13.2	50.0	35.5	-	1.3		2.7	
大阪大学：高温の科学 (T)	240	11.3	47.5	38.8	2.1	0.4		2.7	
大阪大学：相互理解 (R)	144	12.5	46.5	38.2	2.1	0.7		2.7	
広島大学：新しい材料を考える (T)	115	9.6	34.8	50.4	4.3	0.9		2.5	
広島大学：法と文化 (R)	130	10.8	33.1	49.2	6.2	0.8		2.5	
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	685	3.8	21.3	63.6	9.5	1.8		2.2	
熊本大学：音と人間 (T)	114	14.0	21.1	56.1	7.0	1.8		2.4	
熊本大学：地域に生きる (R)	216	14.4	44.9	39.8	0.5	0.5		2.7	
琉球大学：工学における諸問題 (T)	49	14.3	28.6	53.1	4.1	-		2.5	
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	23.5	47.1	26.5	-	2.9		2.9	
(T) テレビ講座：全体	2765	9.4	31.2	50.3	7.2	1.8		2.4	
(R) ラジオ講座：全体	1338	17.0	45.9	34.5	1.9	0.7		2.8	

## 22. 理解の程度 (問16：表22参照)

理解の程度については、「ほぼ理解できた」とする者の比率が50.7%で最も高い。比率の第2位は「あまりよく理解できなかった」の20.5%で、第3位の「よく理解できた」の20.0%とほぼ同比率になっている。

「あまりよく理解できなかった」者の比率が25%をこえているのは、東北大学「マテリアル・サイエンス」の29.8%、信州大学「センサ工学入門」の33.3%といずれも科学技術系の講座である。

表22 理解の程度 (％)

大学：講座名	件数	大変よく理解できた	よく理解できた	ほぼ理解できた	理解できなかった	あまりよくできなかった	ほとんど理解できなかった	平均
合計	4134	6.1	20.0	50.7	20.5	2.7	2.1	
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	156	7.7	24.4	60.3	7.7	-	2.3	
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	146	4.8	31.5	55.5	8.2	-	2.3	
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	84	4.8	8.3	54.8	29.8	2.4	1.8	
東北大学：中国の詩人たち (R)	222	12.2	30.2	52.3	4.5	0.9	2.5	
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	312	8.0	24.4	53.5	13.5	0.6	2.3	
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	177	23.7	36.2	39.0	1.1	-	2.8	
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	33	3.0	30.3	54.5	12.1	-	2.2	
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	58	19.0	25.9	51.7	1.7	1.7	2.6	
信州大学：センサ工学入門 (T)	896	1.5	12.5	45.9	33.3	6.9	1.7	
信州大学：日本語セミナー (R)	136	6.6	18.4	61.0	11.8	2.2	2.2	
名古屋大学：主-人間とのかかわり (T)	98	8.2	28.6	56.1	7.1	-	2.4	
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	76	14.5	35.5	43.4	6.6	-	2.6	
大阪大学：高温の科学 (T)	240	6.7	25.8	55.0	11.7	0.8	2.3	
大阪大学：相互理解 (R)	144	7.6	28.5	57.6	6.3	-	2.4	
広島大学：新しい材料を考える (T)	115	3.5	13.9	59.1	22.6	0.9	2.0	
広島大学：法と文化 (R)	131	9.2	16.8	55.7	17.6	0.8	2.2	
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	694	2.3	9.5	43.4	40.6	4.2	1.6	
熊本大学：音と人間 (T)	116	4.3	19.0	52.6	22.4	1.7	2.0	
熊本大学：地域に生きる (R)	217	7.4	27.6	59.4	4.6	0.9	2.3	
琉球大学：工学における諸問題 (T)	49	4.1	20.4	59.2	14.3	2.0	2.1	
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	5.9	32.4	55.9	5.9	-	2.4	
(T) テレビ講座：全体	2793	3.8	16.0	49.5	27.1	3.6	1.9	
(R) ラジオ講座：全体	1341	11.0	28.2	53.4	6.7	0.7	2.4	

### 23. 今後利用したい継続的な学習方法（問17：表23参照）

今年度も、今後利用したい継続的な学習方法として、放送公開講座が最も高い比率をしめている。

### 24. 放送公開講座の望ましい学習方法（問18：表24参照）

放送公開講座の実施形態として、現在の「放送番組＋テキスト＋スクーリング」方式を支持する者が34.7%で最も多いが、それに「通信指導」を加えることを望む者も32.9%で、ほぼ同比率である。これは、テレビ講座のみをみると、前者が31.2%にたいして後者が33.3%と、わずかながら通信指導を加えることを望む者の比率が高くなっている。

### 25. 希望する講座のタイプ（問19：表25参照）

全体としては、「教養講座」か「総合講座」を望む者の比率が、それぞれ32.4%、27.1%と高い。しかし、比率の第3位、第4位の「専門基礎講座」22.4%、「専門講座」7.2%を専門的講座としてまとめると、その比率は29.6%で、「総合講座」の比率をわずかながら越えることになる。

科学技術系のテーマが多かったテレビ講座では、「専門基礎講座」の26.7%だけで「総合講座」の25.4%より高い比率になっており、「専門講座」と合わせた専門的講座では34.2%になり、「教養講座」の30.0%より高い比率になる。

もっとも、「教養講座」と「総合講座」をまとめれば専門的講座よりずっと比率が高くなる。

### 26. 高岡短期大学分の集計（表26参照）

表26は、高岡短期大学実施分の集計結果である。高岡短期大学の講座は、テレビによる30分番組を合計9回実施したものである。

表23 今後利用したい継続的な学習方法 (%)

大学：講座名	件数	放送公開講座	NHKや民間放送の番組	大学の公開講座	社会教育機関（公民館・図書館等）	カルチャー・センター等	への参加	自主的学習グループ	継続的な学習を 考えていない	その他
合計	4164	38.8	18.0	10.0	9.8	2.4	8.7	6.7	5.6	5.6
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	156	53.2	20.5	10.3	6.4	1.3	5.1	0.6	2.6	2.6
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	146	47.9	18.5	13.0	9.6	2.1	4.8	1.4	2.7	2.7
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	86	45.3	18.6	19.8	1.2	2.3	1.2	9.3	2.3	2.3
東北大学：中国の華人たち (R)	224	49.1	14.3	17.0	4.9	2.7	5.8	1.8	4.5	4.5
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	308	41.2	19.5	9.4	10.1	0.6	9.7	3.6	5.8	5.8
新潟大学：いまに生きる奇蹟 (R)	176	33.5	16.5	10.8	13.1	1.7	14.8	6.3	3.4	3.4
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	33	51.5	18.2	12.1	9.1	3.0	3.0	3.0	-	-
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	55	27.3	18.2	9.1	10.9	3.6	10.9	10.9	9.1	9.1
信州大学：センサ工学入門 (T)	916	24.2	20.3	6.6	8.0	2.8	11.9	16.6	9.6	9.6
信州大学：日本語セミナー (R)	138	31.2	17.4	6.5	16.7	3.6	13.0	7.2	4.3	4.3
名古屋大学：土一人間とのかわり (T)	99	60.6	9.1	10.1	8.1	1.0	6.1	-	5.1	5.1
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	76	51.3	11.8	17.1	3.9	3.9	5.3	-	6.6	6.6
大阪大学：高温の科学 (T)	242	49.2	20.2	11.2	4.5	1.7	2.9	3.3	7.0	7.0
大阪大学：相互理解 (R)	148	40.5	16.2	17.6	10.8	2.7	2.0	2.0	8.1	8.1
広島大学：新しい材料を考える (T)	114	52.6	14.0	12.3	11.4	0.9	3.5	2.6	2.6	2.6
広島大学：法と文化 (R)	136	47.1	14.7	14.7	11.0	4.4	5.9	1.5	0.7	0.7
愛媛大学：情報科学・パソコンと人工知能 (T)	695	38.8	21.0	8.6	7.6	3.2	10.8	4.9	5.0	5.0
熊本大学：音と人間 (T)	115	33.0	13.9	7.8	22.6	2.6	8.7	8.7	2.6	2.6
熊本大学：地域に生きる (R)	217	40.6	9.7	7.4	24.0	0.5	11.1	4.1	2.8	2.8
琉球大学：工学における諸問題 (T)	49	32.7	18.4	6.1	24.5	-	6.1	6.1	6.1	6.1
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	35	48.6	22.9	11.4	5.7	2.9	2.9	-	5.7	5.7
(T) テレビ講座：全体	2813	37.4	19.4	8.9	8.6	2.3	9.0	8.2	6.3	6.3
(R) ラジオ講座：全体	1351	41.8	15.1	12.5	12.2	2.5	8.1	3.5	4.2	4.2



表25 希望する講座のタイプ

(%)

大学：講座名	件数	教養講座	総合講座	専門基礎講座	専門講座	語学講座	趣味・スポーツ講座
合計	4159	32.4	27.1	22.4	7.2	6.5	4.4
北海道大学：北海道経済の地平をさぐる (T)	155	33.5	43.9	12.9	5.2	2.6	1.9
北海道大学：豊かな人間性の創造 (R)	146	38.4	30.1	18.5	5.5	6.8	0.7
東北大学：マテリアル・サイエンス (T)	84	53.6	25.0	16.7	2.4	1.2	1.2
東北大学：中国の詩人たち (R)	225	48.4	24.4	13.8	6.2	5.8	1.3
新潟大学：脳の発生とその障害 (T)	308	46.1	19.5	17.9	8.1	6.2	2.3
新潟大学：いまに生きる昔話 (R)	172	45.3	21.5	13.4	7.0	11.0	1.7
金沢大学：新時代を迎えた世界と北陸の経済 (T)	32	21.9	46.9	15.6	6.3	6.3	3.1
金沢大学：乳幼児の発達 (R)	58	31.0	29.3	13.8	15.5	5.2	5.2
信州大学：センサ工学入門 (T)	918	23.3	24.2	30.8	9.8	5.1	6.8
信州大学：日本語セミナー (R)	137	25.5	30.7	17.5	7.3	13.9	5.1
名古屋大学：土-人間とのかかわり (T)	100	27.0	47.0	14.0	9.0	3.0	-
名古屋大学：東海の企業と経済 (R)	76	35.5	38.2	14.5	10.5	1.3	-
大阪大学：高温の科学 (T)	242	32.2	28.9	27.3	6.6	3.3	1.7
大阪大学：相互理解 (R)	147	31.3	40.1	12.2	5.4	8.8	2.0
広島大学：新しい材料を考える (T)	112	37.5	30.4	21.4	3.6	3.6	3.6
広島大学：法と文化 (R)	136	33.8	34.6	13.2	8.1	8.1	2.2
愛媛大学：情報科学-パソコンと人工知能- (T)	700	26.9	19.9	35.9	6.0	5.6	5.9
熊本大学：音と人間 (T)	112	34.8	24.1	6.3	2.7	17.0	15.2
熊本大学：地域に生きる (R)	215	35.3	33.5	6.0	4.7	12.1	8.4
琉球大学：工学における諸問題 (T)	50	22.0	22.0	24.0	18.0	10.0	4.0
琉球大学：沖縄の民俗文化 (R)	34	29.4	29.4	23.5	-	11.8	5.9
(T) テレビ講座：全体	2813	30.0	25.4	26.7	7.5	5.4	5.0
(R) ラジオ講座：全体	1346	37.2	30.6	13.4	6.7	8.8	3.2

表26 高岡短期大学分

受講生の性別 (問1) (%)

	件数		(T)	%
	男	女		
高岡短期大学：工芸の世界	83	53.0	83	47.0

受講生の年齢 (問2) (%)

	件数							(T)	%
	20歳未満	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～69歳	70歳以上		
高岡短期大学：工芸の世界	-	9.6	20.5	36.1	24.1	8.4	1.2	83	24.1

受講生の学歴 (問3) (%)

	件数											(T)	%					
	小学校・新制中学 旧制高小卒	小学校・新制中学 旧制高小卒	新制高校 旧制中学 旧制高女卒	短大・新制高専卒	旧制専門学校卒	大学・旧制高校	大学院卒	各種学校卒	専修学校	短大・高専在学中	大学在学中			大学院在学中	専修学校 各種学校在学中	高校在学中	その他	
高岡短期大学：工芸の世界	7.2	37.3	19.3	31.3	-	4.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	83	7.2

受講生の職業 (問4) (%)

	件数										(T)	%
	農林漁業	事務・技術系	労務系	管理職・自由業	教育・研究職	商店主	中小企業経営者	主婦・家事手伝い	学生	無職		
高岡短期大学：工芸の世界	2.4	33.7	2.4	3.6	4.8	9.6	31.3	1.2	6.0	4.8	83	2.4

講座を知った媒体 (問5) (%)

件数	件	テレビ	ラジオ	新聞	市町村の広報	大学からの案内	人の話	その他
83	(T)	26.5	2.4	3.6	8.4	48.2	8.4	2.4
高岡短期大学：工芸の世界								

受講動機 (問6) (%)

件数	件	地域の大学教授の授業を受けてみたい	家で学習できる	教養を高めるため	テーマに関心があった	放送利用の大学公開講座を以前受講して面白かったから	その他
83	(T)	7.2	9.6	16.9	62.7	1.2	2.4
高岡短期大学：工芸の世界							

今回も含めた登録講座数 (問7) (%)

件数	件	1講座	2講座 (今回テレビ・ラジオの2講座に登録)	2講座 (今回は1講座でかつて1講座登録)	3講座	4講座	5～9講座	10講座以上	平均
83	(T)	90.4	4.8	3.6	-	1.2	-	-	1.1
高岡短期大学：工芸の世界									

正式登録なしの視聴講座数 (問8) (%)

件数	件	1～2講座	3～4講座	5講座以上	ある視聴したことはない	全体を通してではないが視聴したことはない	視聴したことはない
83	(T)	8.4	2.4	-	10.8	78.3	-
高岡短期大学：工芸の世界							

講座内容に対する予備知識 (問9) (%)

件数	全くなかった	あまりなかった	ややあった	かなりあった	非常にあった	平均
83	15.7	22.9	49.4	9.6	2.4	1.6
(T)						

学校卒業後の継続的な学習の経験 (問10) (%)

件数	放送公開講座	NHKや民間放送の番組	大学の公開講座	社会教育機関(公民館・図書館等)	カルチャール・センター等への参加	自主的学習グループ	特に継続的に学習したことはない	その他
83	3.6	28.9	4.8	14.5	4.8	9.6	32.5	1.2
(T)								

番組の視聴状況 (問11-a) (%)

件数	2回以下	3~4回	5~6回	7~8回	9回	平均
83	2.4	4.8	20.5	33.7	38.6	7.4
(T)						

番組の視聴を継続しなかった理由 (問11-b) (%)

件数	時間がとれなかった	放送時間帯があわなかった	難しすぎた	内容がやさしすぎた	内容が期待していたものと違っていった	その他
19	31.6	57.9	-	-	5.3	5.3
(T)						

## 録画、録音回数 (問 1 2 - a) (%)

件数	録画、録音した理由 (問 1 2 - b) (%)					平均
	1 2回	3 4回	5 6回	7 8回	9回	
54 (T)	13.0	18.5	5.6	37.0	25.9	6.3
高岡短期大学：工芸の世界						

## 録画、録音した理由 (問 1 2 - b) (%)

件数	テキストの予習 (問 1 3 - a) (%)							その他
	放送時間帯に 視聴できなかった	好きな時間に 視聴したかった	くり返し 視聴したかった	保存して おきたかった	他の人にも 視聴させたかった	自宅の受信状態が 良くなかった		
54 (T)	46.3	-	37.0	14.8	1.9	-	-	
高岡短期大学：工芸の世界								

## テキストの予習 (問 1 3 - a) (%)

件数	視聴中のノートやメモ (問 1 3 - b) (%)					平均
	全 しなかった	ほとんど しなかった	少しした	大体した	毎回した	
80 (T)	10.0	16.3	46.3	21.3	6.3	2.0
高岡短期大学：工芸の世界						

## 視聴中のノートやメモ (問 1 3 - b) (%)

件数	視聴中のノートやメモ (問 1 3 - b) (%)					平均
	全 しなかった	ほとんど しなかった	少しした	大体した	毎回した	
81 (T)	30.9	19.8	28.4	11.1	9.9	1.5
高岡短期大学：工芸の世界						

視聴後の復習 (問 13-c) (%)

	件数	全 しな かつた	ほ と ん ど し な かつた	少 し し た	大 体 し た	毎 回 し た	平 均
高岡短期大学：工芸の世界	(T) 80	17.5	26.3	42.5	10.0	3.8	1.6

視聴内容についての話し合い (問 13-d) (%)

	件数	全 しな かつた	ほ と ん ど し な かつた	少 し し た	大 体 し た	毎 回 し た	平 均
高岡短期大学：工芸の世界	(T) 81	23.5	7.4	49.4	14.8	4.9	1.7

スクリーニングへの出席状況 (問 14-a) (%)

	件数	0 回	1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回
高岡短期大学：工芸の世界	(T) 83	16.9	12.0	14.5	27.7	28.9	-	-

全く出席しなかった理由 (問 14-b) (%)

	件数	放送番組と予キスト 十分学習できた	遠くで出席 できなかった	スクリーニング会場が なかった	スクリーニングに 出席する時間が なかった	スクリーニングには 難しさを感ぜなかった	現在の その他
高岡短期大学：工芸の世界	(T) 14	14.3	28.6	50.0	-	7.1	-

受講した感想 (問 15) (%)

件数	期待していた以上で大変満足した	満足しており期待とおりで	期待はすれ点もあるが受講してよかった	期待はすれ点が多く不満だった	全く期待はずれだった	平均
83	10.8	36.1	48.2	3.6	1.2	2.5
高岡短期大学：工芸の世界 (T)						

理解の程度 (問 16) (%)

件数	大変よく理解できた	よく理解できた	ほぼ理解できた	あまりよく理解できなかった	ほとんど理解できなかった	平均
82	13.4	22.0	56.1	8.5	-	2.4
高岡短期大学：工芸の世界 (T)						

今後利用したい継続的な学習方法 (問 17) (%)

件数	放送公開講座	NHKや民間放送の番組	大学の公開講座	社会教育機関(公民館・図書館等)	カルチャールセンター等	自主的学習グループ	継続的な学習を続けようとは考えていない	その他
82	35.4	14.6	17.1	14.6	2.4	11.0	3.7	1.2
高岡短期大学：工芸の世界 (T)								

放送公開講座の望ましい学習方法 (問 18) (%)

件数	通信指導+試験	放送番組+テキスト+スクリーニング+	放送番組+テキスト+スクリーニング+	放送番組+テキスト	放送番組+テキスト	スクリーニング	放送番組+	テキスト+	放送番組だけ	テキストだけ	その他
82	11.0	25.6	34.1	17.1	4.9	2.4	-	-	-	-	4.9
高岡短期大学：工芸の世界 (T)											

希望する講座のタイプ (問19) (%)

	件数	教養講座	総合講座	専門基礎講座	専門講座	語学講座	趣味・ スポーツ講座
高岡短期大学：工芸の世界	82 (T)	32.9	28.0	19.5	8.5	6.1	4.9

## 第2章 学習状況・満足度・理解度に関する基礎クロス分析

### 1. 今回の登録を含む登録回数

全体に既登録経験者が多い。特に60歳以上の高齢者では、平均して4～5回の登録を経験している。ただし若年者は公開講座初体験者がほとんどである。

### 2. 番組視聴および録画・録音の状況

番組視聴の平均回数は、女性の方が若干多いが、性差よりも年齢差の方が顕著である。視聴を継続しなかった理由としては、若年者で「放送時間があわない」が多く、中高年で「時間がとれない」が多く、内容的な原因をあげる受講者は少なかった(問11-b)。録画・録音の状況に関しては、むしろ20歳以下の層での平均回数が多い。録音・録画の理由としては、若年者で「放送時間に視聴できなかった」が多く、中高年で「くり返し視聴したかった」が多かった(問12-b)。

### 3. 学習の深度について

テキストの予習をする～受講後の話し合いをする、までは、学習の深度に関する項目である。受講後の話し合いを除き、全般に男性より女性、若年者より高齢者が熱心に学習に取り組んでいるといえよう。特にノートをとるか否かに関する差異は大きい。

### 4. スクーリングへの出席状況

スクーリングへの出席は、大学で全般に低調であるが、高岡短大ではかなり平均値が高くなっている(ただし70歳～は実数1名で、有意ではない)。大学の場合はこれに関しても高齢者の熱心さが目立つ。スクーリングに全く参加しなかった理由としては、高齢者で「会場が遠い」という回答が1/4にのぼっていたことが特徴的である。また、同回答は、女性の場合も多かった。

### 5. 受講後の満足感と理解の程度

受講後の満足感は、女性と中高年で高い。満足感は、しかし必ずしも理解の程度と完全に相関しているわけではない。高岡短期大学では特にその両者の関係が不明瞭になっている。

### 6. 受講動機・学習状況別に見た受講後の満足感と理解の程度

受講動機別に見て満足感・理解度ともに高いのは、「以前に受講して面白かったから」「地元の教授の講義を受けたい」の両者であった。逆に低いのは、「教養を高めるため」という比較的抽象的な動機である。番組の視聴回数別に見ると、当然のことながら回数の多いほど満足感・理解度ともに高い。他の学習指標も、全般に学習の深度がたかいほど満足感・理解度ともに高い。ただし、スクーリングへの出席に関してだけは、4回程度の出席をした層で、満足感が最も高くなっているのが目立っている。

放送公開講座受講者の属性別関与度（11大学分）

質問項目	性別		年齢別						
	男	女	～20	～29	～39	～49	～59	～69	70～
登録回数(含今回)	2.2	2.4	1.0	1.3	1.6	2.0	2.7	3.8	4.9
番組視聴状況	8.4	8.9	6.6	7.1	8.1	8.6	9.5	9.9	10.0
録画録音回数	8.4	7.7	9.3	8.0	8.2	8.1	8.4	8.9	7.6
テキストの予習(0～4)	1.6	2.1	1.3	1.2	1.5	1.9	2.1	2.3	2.5
視聴中ノート(0～4)	1.3	1.9	0.6	0.9	1.3	1.6	1.8	2.0	2.2
視聴後復習(0～4)	1.4	1.6	0.9	1.1	1.2	1.5	1.7	2.0	2.0
話合い(0～4)	0.9	1.2	1.0	0.9	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9
スクーリング出席回数	0.83	0.93	0.78	0.56	0.68	0.88	0.99	1.31	1.22
受講後満足(0～4)	2.4	2.7	2.2	2.1	2.4	2.6	2.7	2.9	2.8
理解の程度(0～4)	2.0	2.2	1.4	1.7	2.0	2.2	2.3	2.3	2.3

放送公開講座受講者の属性別関与度（高岡短期大学分）

質問項目	性別		年齢別						
	男	女	～20	～29	～39	～49	～59	～69	70～
登録回数(含今回)	1.1	1.1	-	1.0	1.0	1.1	1.3	1.1	2.0
番組視聴状況	7.3	7.5	-	6.6	7.3	7.3	7.7	8.0	8.0
録画録音回数	6.1	6.5		7.0	7.2	6.3	5.6	5.0	-
テキストの予習(0～4)	1.9	2.0	-	1.4	1.6	2.1	2.1	2.7	2.0
視聴中ノート(0～4)	1.4	1.6	-	1.6	0.5	1.8	1.8	1.4	4.0
視聴後復習(0～4)	1.5	1.6	-	1.1	1.6	1.8	1.4	1.1	3.0
話合い(0～4)	1.6	1.8	-	1.9	1.0	1.6	2.1	2.3	3.0
スクーリング出席回数	2.64	2.18	-	2.13	2.77	2.30	2.20	2.57	4.00
受講後満足(0～4)	2.4	2.6	-	2.3	2.2	2.5	2.8	2.7	3.0
理解の程度(0～4)	2.5	2.3	-	2.5	2.3	2.2	2.7	2.3	3.0

受講した感想 (問15)

受講動機 (問6)	件数	大変満足した	期待していた以上で	満足した	期待どおりで	受講してよかった	点もあるが	期待はずれの	点が多くの	期待はずれの	全く期待はずれ	平均
合計	4103	11.9	36.0	45.2	5.5	1.4	2.5					2.5
地元の大学教授の授業を受けてみたい	227	17.6	41.0	38.3	2.2	0.9	2.7					2.7
家で学習できる	355	11.5	36.1	47.0	4.8	0.6	2.5					2.5
授業を高めるため	1000	9.3	34.4	46.2	8.1	2.0	2.4					2.4
テーマに関心があった	1995	11.9	35.9	46.5	4.8	1.0	2.5					2.5
放送利用の大学公開講座を以前受講して面白かったから	361	17.5	44.0	34.1	3.9	0.6	2.7					2.7
その他	145	7.6	22.8	51.7	9.7	8.3	2.1					2.1

理解の程度 (問16)

受講動機 (問6)	件数	大変よく理解できた	よく理解できた	ほぼ理解できた	あまりよく理解できなかった	ほとんど理解できなかった	平均
合計	4134	6.1	20.0	50.7	20.5	2.7	2.1
地元の大学教授の授業を受けてみたい	229	8.7	21.8	52.8	14.8	1.7	2.2
家で学習できる	358	5.0	16.2	55.9	20.4	2.5	2.0
授業を高めるため	1011	3.3	16.2	49.7	26.4	4.5	1.9
テーマに関心があった	2007	7.3	22.0	50.1	19.0	1.6	2.1
放送利用の大学公開講座を以前受講して面白かったから	361	8.0	24.9	53.2	12.2	1.7	2.3
その他	147	4.8	13.6	44.2	28.6	8.8	1.8

受講した感想 (問15)

番組の視聴状況 (問11-a)	件数	大変満足した	期待していた以上で満足した	期待どおりで満足した	受講してよかった	点もあるか	期待はずれの点が多かった	期待はずれだった	全く期待はずれだった	平均
合計	4103	11.9	36.0	45.2	5.5	1.4	2.5			
2回以下	348	7.2	24.7	42.8	14.9	10.3	2.0			
3~5回	699	3.6	24.5	58.8	11.9	1.3	2.2			
6~8回	637	6.4	36.9	50.1	6.0	0.6	2.4			
9~11回	1056	13.5	39.4	44.0	2.6	0.5	2.6			
12回以上	1287	18.6	42.0	37.3	1.9	0.2	2.8			

理解の程度 (問16)

番組の視聴状況 (問11-a)	件数	大変よく理解できた	よく理解できた	ほぼ理解できた	あまりよく理解できなかった	ほとんど理解できなかった	平均
合計	4134	6.1	20.0	50.7	20.5	2.7	2.1
2回以下	369	2.7	11.4	39.0	30.9	16.0	1.5
3~5回	708	2.4	12.7	45.5	35.0	4.4	1.7
6~8回	640	4.7	16.4	56.7	20.6	1.6	2.0
9~11回	1055	6.9	21.2	56.5	14.7	0.7	2.2
12回以上	1284	9.1	27.0	49.6	14.2	0.1	2.3

受講した感想 (問15)

件数	期待していた以上で大変満足した	期待どおりで満足した	期待はすれど点もあるが受講してよかった	期待はすれど点が多く不満足だった	全く期待はずれだった	平均
テキストの予習 (問13-a)						
合計	4103	36.0	45.2	5.5	1.4	2.5
全くしなかった	768	5.7	53.0	13.0	4.7	2.1
ほとんどしなかった	807	8.3	51.8	7.4	1.1	2.4
少しした	1344	9.9	47.7	3.4	0.1	2.5
大體した	713	16.0	35.1	1.8	0.6	2.8
毎回した	381	29.1	26.8	0.8	1.3	3.0

理解の程度 (問16)

件数	大変よく理解できた	よく理解できた	ほぼ理解できた	あまりよく理解できなかった	ほとんど理解できなかった	平均
テキストの予習 (問13-a)						
合計	4134	20.0	50.7	20.5	2.7	2.1
全くしなかった	784	3.7	43.6	30.6	9.3	1.7
ほとんどしなかった	815	3.4	51.5	28.1	2.3	1.9
少しした	1352	3.9	55.0	22.0	0.8	2.0
大體した	716	8.9	53.6	7.3	0.4	2.4
毎回した	378	19.8	42.1	3.2	-	2.7

受講した感想 (問15)

視聴中のノートやメモ (問13-b)	件数	期待していた以上で 大変満足した	期待どおりで 満足した	期待はずれの 点もあるが 受講してよかった	期待はずれの 点が多く 不満だった	全く期待はずれ だった	平均
合計	4103	11.9	36.0	45.2	5.5	1.4	2.5
全くしなかった	1273	7.2	28.7	51.8	8.9	3.4	2.3
ほとんどしなかった	766	8.2	33.0	51.3	7.0	0.4	2.4
少しした	1081	12.5	39.5	43.2	4.2	0.6	2.6
大体した	489	17.6	41.7	39.3	1.0	0.4	2.8
毎回した	373	23.6	48.8	26.3	1.3	-	2.9

理解の程度 (問16)

視聴中のノートやメモ (問13-b)	件数	大変よく理解できた	よく理解できた	ほぼ理解できた	あまりよく 理解できなかった	ほとんど理解 できなかった	平均
合計	4134	6.1	20.0	50.7	20.5	2.7	2.1
全くしなかった	1298	5.2	16.6	43.9	28.4	5.9	1.9
ほとんどしなかった	768	4.6	15.2	52.3	26.6	1.3	2.0
少しした	1086	5.8	20.1	55.5	17.6	1.0	2.1
大体した	490	6.5	27.3	55.1	9.8	1.2	2.3
毎回した	373	13.4	33.5	47.7	5.1	0.3	2.5

受講した感想 (問15)

視聴後の復習 (問13-c)	件数	大変満足した	期待していた以上で	期待どおりで満足した	期待はずれの間点もあるが受講してよかった	期待はずれの間点が多く不満だった	全く期待はずれだった	平均
合計	4103	11.9	36.0	45.2	5.5	1.4	2.5	
全くしなかった	1010	5.5	25.2	51.9	12.5	4.9	2.1	
ほとんどしなかった	953	6.8	35.9	51.1	6.1	0.1	2.4	
少しした	1323	13.2	38.8	45.2	2.5	0.4	2.6	
大體した	505	21.0	48.9	29.5	0.6	-	2.9	
毎回した	186	34.9	38.7	25.8	0.5	-	3.1	

理解の程度 (問16)

視聴後の復習 (問13-c)	件数	大変よく理解できた	よく理解できた	ほぼ理解できた	あまりよく理解できなかった	ほとんど理解できなかった	平均
合計	4134	6.1	20.0	50.7	20.5	2.7	2.1
全くしなかった	1034	4.3	14.0	44.6	28.7	8.4	1.8
ほとんどしなかった	960	3.1	16.1	53.6	25.8	1.3	1.9
少しした	1324	5.5	22.3	53.0	18.7	0.5	2.1
大體した	507	12.0	32.1	50.9	4.9	-	2.5
毎回した	184	21.2	27.2	47.8	3.8	-	2.7

受講した感想 (問15)

スクリーニングへの出席状況 (問14-a)		件数	大変満足した	期待していた以上で	期待どおりで満足した	受講してよかった点もあるが	期待はずれの点も多く不満だった	期待はずれだった	全く期待はずれだった	平均
合計		4103	11.9	36.0	45.2	5.5	1.4		2.5	
0回		2046	8.2	32.0	50.5	7.0	2.3		2.4	
1回		1058	12.3	36.8	44.4	5.7	0.9		2.5	
2回		568	17.1	38.2	41.2	3.3	0.2		2.7	
3回		342	19.6	50.6	29.2	0.6	-		2.9	
4回		80	31.3	51.3	16.3	1.3	-		3.1	
5回		4	25.0	25.0	50.0	-	-		2.8	
6回		5	-	40.0	40.0	-	20.0		2.0	

理解の程度 (問16)

スクリーニングへの出席状況 (問14-a)		件数	大変よく理解できた	よく理解できた	ほぼ理解できた	あまりよく理解できなかった	ほとんど理解できなかった	平均
合計		4134	6.1	20.0	50.7	20.5	2.7	2.1
0回		2072	5.1	16.7	48.8	25.3	4.2	1.9
1回		1061	5.3	19.7	53.3	20.3	1.4	2.1
2回		572	7.5	24.5	53.0	13.6	1.4	2.2
3回		342	10.8	30.4	51.8	7.0	-	2.5
4回		78	14.1	32.1	50.0	3.8	-	2.6
5回		4	25.0	50.0	25.0	-	-	3.0
6回		5	20.0	-	-	60.0	20.0	1.4

番組の視聴を継続しなかった理由（問11 - b）

	件数	と時間がなかった	放送時間帯があわなかった	内容が難しすぎた	内容がやさしすぎた	内容が期待していたものと違っていた	その他
合計	1769	32.8	49.7	4.0	0.3	5.8	7.3
性別 男性	1321	31.6	51.9	3.6	0.3	6.1	6.5
女性	444	36.5	42.8	5.4	0.5	5.2	9.7
年齢 20歳未満	20	25.0	65.0	-	-	5.0	5.0
20歳～29歳	556	28.4	56.7	2.5	0.2	7.2	5.0
30歳～39歳	463	30.7	52.7	3.7	0.9	5.8	6.3
40歳～49歳	335	34.3	45.1	6.9	0.3	5.4	8.1
50歳～59歳	201	41.3	42.8	3.0	-	5.5	7.5
60歳～69歳	155	43.9	34.8	6.5	-	3.9	11.0
70歳以上	38	26.3	39.5	2.6	-	-	31.6

録画、録音した理由（問12 - b）

	件数	放送時間帯にできなかった	好きな時間帯にできなかった	くり返したかった	おきたかった	他の人にもさせたかった	自宅の受信状態が良くなかった	その他
合計	2405	55.8	10.6	21.3	8.0	2.4	0.8	1.0
性別 男性	1763	56.5	11.4	20.3	8.3	2.3	0.4	0.9
女性	637	54.2	8.3	24.2	6.9	2.8	2.0	1.6
年齢 20歳未満	17	64.7	5.9	17.6	5.9	-	-	5.9
20歳～29歳	567	71.6	10.1	7.9	7.6	1.4	0.9	0.5
30歳～39歳	643	60.5	12.6	16.3	6.8	2.5	0.6	0.6
40歳～49歳	493	54.8	9.3	23.3	7.5	2.2	1.2	1.6
50歳～59歳	401	46.9	9.2	29.2	8.5	3.2	1.0	2.0
60歳～69歳	218	26.6	11.5	47.7	9.6	3.7	0.5	0.5
70歳以上	63	31.7	9.5	38.1	17.5	3.2	-	-

全く出席しなかった理由（問14-b）

	件数	放送番組とテキスト 又はその一方で 十分学習できた	遠くて出席 できなかった	スクリーング会場が なかつた	スクリーングに 出席する時間が なかつた	現在の スクリーングには 魅力を感じなかつた	その他
合計	2008	5.8	11.9	70.7	2.6	9.0	
年齢... 20歳未満	15	6.7	-	86.7	-	6.7	
20歳～29歳	549	2.9	8.4	77.2	5.6	5.8	
30歳～39歳	513	5.1	12.3	71.7	1.8	9.2	
40歳～49歳	355	4.5	12.4	73.8	1.4	7.9	
50歳～59歳	282	7.8	9.9	73.0	0.4	8.9	
60歳～69歳	204	12.3	17.2	52.9	2.5	15.2	
70歳以上	86	10.5	25.6	44.2	1.2	18.6	
職業... 農林漁業	30	16.7	20.0	43.3	3.3	16.7	
事務・技術系	943	3.4	7.6	78.6	2.4	8.0	
労務系	47	2.1	17.0	76.6	2.1	2.1	
管理職・自由業	80	8.8	6.3	78.8	-	6.3	
教育・研究職	213	8.0	17.4	67.6	2.3	4.7	
中小企業経営者・商店主	39	5.1	23.1	53.8	-	17.9	
主婦・家事手伝い	237	6.3	19.8	61.2	-	12.7	
学生	177	6.2	5.1	72.9	10.2	5.6	
無職	167	13.2	21.0	45.5	2.4	18.0	
その他	60	3.3	11.7	73.3	-	11.7	

(参考)

### 昭和63年度放送利用の大学公開講座の受講生に対するアンケート調査（各大学共通分）

本年度の放送利用の大学公開講座は、12大学（大学群）において右表のとおり実施いたしました。

このアンケート調査は、これらの放送利用の大学公開講座を受講された方全員を対象として共通の様式で実施するもので、講座をより一層充実したものにするための資料を得ることを目的としています。

なお、この調査は無記名とし、結果は統計的にまとめますので、個人に対してご迷惑をおかけするようなことは一切ありません。

#### 記入上の注意

- ① アンケートの回答は、すべて回答用紙（別紙）の該当欄にお書きください。
- ② 問1から問19については、該当する回答の番号又は数字を、【番号・数字記入欄】にお書きください。  
  
(なお、回答に「その他」を選ばれた方及び問4で「8. 学生」を選ばれた留学生の方は  
  
具体的回答を【自由記述欄】にお書きください。)
- ③ 問20、問21については、具体的回答を【自由記述欄】にお書きください。

[放送利用の大学公開講座実施大学及び講座名]

(注：(TV)はテレビ講座、(R)はラジオ講座)

北海道大学	(TV) 北海道経済の地平をさぐる (R) 豊かな人間性の創造—開かれた教育のために—
東北大学	(TV) マテリアル・サイエンス—その基礎から応用へ— (R) 中国の詩人たち—陶淵明から毛沢東まで—
新潟大学	(TV) 脳の発生とその障害—その巧みなしくみを求めて— (R) いまに生きる昔話—グリム・メルヘンの再発見—
金沢大学	(TV) 新時代を迎えた世界と北陸の経済 (R) 乳幼児の発達
信州大学	(TV) センサ工学入門—新しい計測技術への招待— 日本語セミナー—現代人とことば—
名古屋大学	(TV) 土—人間とのかかわり (R) 東海の企業と経済
大阪大学	(TV) 高温の科学—先端技術のパイオニア— (R) 相互理解
広島大学	(TV) 新しい材料を考える (R) 法と文化—憲法の根底を旅する—
四国地区国立大学 (企画：愛媛大学)	(TV) 情報科学—パソコンと人工知能—
熊本大学	(TV) 音と人間 (R) 地域に生きる
琉球大学	(TV) 工学における諸問題 (R) 沖縄の民俗文化
高岡短期大学	(TV) 工芸の世界

問1 あなたの性別についてお答えください。

1. 男
2. 女

問2 あなたの年齢は満何歳ですか。

1. 20歳未満
2. 20歳～29歳
3. 30歳～39歳
4. 40歳～49歳
5. 50歳～59歳
6. 60歳～69歳
7. 70歳以上

問3 あなたの学歴についてお答えください。

なお、現在在学中の方は、7～11の中から選んでください。

1. 小学校・新制中学・旧制高小卒
2. 新制高校・旧制中学・旧制高女卒
3. 短大・新制高専卒
4. 大学・旧制高校・旧制専門学校卒
5. 大学院卒
6. 専修学校・各種学校卒
7. 短大・高専在学中
8. 大学在学中
9. 大学院在学中
10. 専修学校・各種学校在学中
11. 高校在学中
12. その他（回答用紙の自由記述欄 A に具体的にお書きください）

問4 あなたの職業についてお答えください。

1. 農林漁業（自営業・家族従事者を含める）
2. 事務・技術系の職業（一般会社・一般公務員など）
3. 労務系の職業（工員・運転手・大工なども含める）
4. 大企業・官公庁の幹部職員及び自由業（開業医や弁護士なども含める）
5. 教育職・研究職（学校教員・大学教官・研究所々員など）
6. 中小企業経営者・商店主
7. 主婦・家事手伝い
8. 学生（留学生の場合は、回答用紙の自由記述欄 B に国籍をお書きください）
9. 無職
10. その他（回答用紙の自由記述欄 C に具体的にお書きください）

問5 この講座が実施されることを1番最初に何で知りましたか。

1. テレビ
2. ラジオ

3. 新聞
4. 市町村・公民館の広報等
5. 大学からの案内（ポスター、パンフレット等）
6. 人の話
7. その他（回答用紙の自由記述欄 D に具体的にお書きください）

問6 この講座を受講しようとした主な動機は次のうちのどれでしたか。

1 番強い理由を1つだけ選んでください。

1. 地元の大学教授の授業を受けてみたいから
2. 家庭で学習できるから
3. 教養を高めるために
4. テーマに関心があったから
5. 放送利用の大学公開講座を以前受講して、面白かったから
6. その他（回答用紙の自由記述欄 E に具体的にお書きください）

問7 放送利用の大学公開講座の受講生として正式に登録したのは、今回を含めて何講座ですか。

1. 1 講座
2. 2 講座（今回、テレビ、ラジオの2 講座に登録した）
3. 2 講座（今回は1 講座で、かつて1 講座登録したことがある）
4. 3 講座
5. 4 講座
6. 5～9 講座
7. 10 講座以上

問8 受講生として正式には登録しないで、放送利用の大学公開講座の放送された番組を視聴したことが、これまでどの程度ありますか。

1. 講座全体を通して視聴したことが1～2 講座ある
2. 講座全体を通して視聴したことが3～4 講座ある
3. 講座全体を通して視聴したことが5 講座以上ある
4. 講座全体を通してではないが視聴したことはある
5. 視聴したことはない

問9 今回受講したこの講座の内容に関して、どのくらいの前知識がありましたか。

1. 全くなかった
2. あまりなかった
3. ややあった
4. かなりあった

5. 非常にあった

問10 学校卒業後の継続的な学習についておたずねします。1番よく利用しているものを1つだけ選んでください。

なお、現在在学中の方は、学校での正規の授業や課外活動以外の学習についてお答えください。

1. 放送利用の大学公開講座
2. NHK や民間放送の番組（放送利用の大学公開講座を除く）
3. 大学の公開講座（放送利用の大学公開講座を除く）
4. 社会教育機関（公民館、図書館等）
5. カルチャー・センター等
6. 自主的学習グループへの参加
7. 特に継続的に学習したことはない
8. その他（回答用紙の自由記述欄Fに具体的にお書きください）

問11 この講座番組に対するあなたの視聴状況について、おたずねします。以下のa)～b)の設問についてお答えください。

a) 番組13回（ただし、高岡短期大学にあっては9回）のうち、何回視聴しましたか。回答欄に数字でお答えください。

なお、テレビ講座については録画、ラジオ講座については録音したもので視聴した場合も、視聴とみなします。

b) 番組の視聴を継続しなかった方におたずねします。

その理由は、次のうちどれですか。最も適当だと思われるものを1つだけ選んでください。

1. 学習のための時間がとれなかったから
2. 放送時間帯があわなかったから
3. 内容が難しすぎたから
4. 内容がやさしすぎたから
5. 内容が期待していたものと違っていたから
6. その他（回答用紙の自由記述欄Gに具体的にお書きください）

問12 録画、録音された方におたずねします。以下のa)～b)の設問にお答えください。

a) 録画、録音した回数は何回ですか。回答欄に数字でお答えください。

b) 録画、録音した理由は、次のうちどれですか。最も適当だと思われるものを1つだけ選んでください。

1. 放送時間帯に視聴できなかったから
2. 放送時間帯に視聴することはできたが、好きな時間に視聴したかったから
3. くり返し視聴したかったから

4. 番組を保存しておきたかったから
5. 他の人にも視聴させたかったから
6. 自宅の受信状態が悪くなかったから（自宅外で録画、録音を行った）
7. その他（回答用紙の自由記述欄 H に具体的にお書きください）

問13 この講座の放送された番組を視聴する際に、あなたはどのようなことをなさいましたか。  
以下の a) ~d) の設問についてお答えください。

- a) テキストの予習をした
- b) 視聴中にノートやメモをとった
- c) 視聴後、復習をした
- d) 視聴内容について、他の人と話し合い等をした

毎 回 し た	大 体 し た	少 し し た	ほ し な ん か ど た	全 し な か っ た
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1
5	4	3	2	1

問14 この講座のスクーリングへの出席状況について、おたずねします。

以下の a) ~b) の設問についてお答えください。

- a) 何回出席されましたか。回答欄に数字でお答えください。
- b) スクーリングに全く出席されなかった方におたずねします。スクーリングに出席しなかった理由をお答えください。
  1. 放送番組とテキスト、又はその一方で十分学習できたから
  2. スクーリング会場が遠くて出席できなかったから
  3. スクーリングに出席する時間がなかったから
  4. 現在のスクーリングには魅力を感じなかったから
  5. その他（回答用紙の自由記述欄 I に具体的にお書きください）

問15 この講座を受講してみて、あなたの感想はどうでしたか。1つだけ選んでください。

1. 期待していた以上で、大変満足した
2. 期待どおりで、満足した
3. 期待はずれの点もあるが受講してよかった
4. 期待はずれの点が多く、不満足だった
5. 全く期待はずれだった

問16 この講座を受講してみて、講座の内容をどの程度理解できたと思いますか。1つだけ選んでください。

1. 大変よく理解できた
2. よく理解できた
3. ほぼ理解できた
4. あまりよく理解できなかった
5. ほとんど理解できなかった

問17 今後どのような手段で継続的な学習を続けようと思っておりますか。最も利用したいものを1つだけ選んでください。

1. 放送利用の大学公開講座
2. NHK や民間放送の番組（放送利用の大学公開講座を除く）
3. 大学の公開講座（放送利用の大学公開講座を除く）
4. 社会教育機関（公民館、図書館等）
5. カルチャー・センター等
6. 自主的学習グループへの参加
7. 継続的な学習を続けようとは考えていない
8. その他（回答用紙の自由記述欄Jに具体的にお書きください）

問18 放送利用の大学公開講座の学習方法についておたずねします。

あなたが最も望ましいと思われる方法を次の中から1つだけ選んでください

1. 放送番組＋テキスト＋スクーリング＋通信指導（郵便による添削指導等）＋試験
2. 放送番組＋テキスト＋スクーリング＋通信指導
3. 放送番組＋テキスト＋スクーリング
4. 放送番組＋テキスト
5. 放送番組＋スクーリング
6. テキスト＋スクーリング
7. 放送番組だけ
8. テキストだけ
9. その他（回答用紙の自由記述欄Kに具体的な組合せをお書きください）

問19 今後、放送利用の大学公開講座でどのようなタイプの講座を取り上げたらよいと思われませんか。特に取り上げたらよいと思われるものを1つだけ選んでください。

1. 専門的な学問の内容をわかりやすく解説するような講座（教養講座）
2. 特定の主題に対して色々な専門分野から総合的にアプローチするような講座（総合講座）
3. 専門的な学問を深く学習するために必要な基礎の修得を目的とした講座（専門基礎講座）

4. 専門的な学問の講座（専門講座）
5. 会話や文章による意志疎通のための実用的な語学力を養う講座（語学講座）
6. 実技指導を主とした趣味あるいはスポーツの講座（趣味・スポーツ講座）

問20 今後、放送利用の大学公開講座でどのようなテーマ領域を取り上げたらよいと思われ  
ますか。具体的なテーマをお持ちでしたら、回答用紙の自由記述欄 L に 1 番取り上げたらよ  
いと思われるものをお書きください。

問21 放送利用の大学公開講座について、お気付きの点がありましたら回答用紙の自由記述欄  
M に何でも御自由にお書きください。

昭和63年度放送利用の大学公開講座アンケート（各大学共通分）回答用紙

※この欄は、大学側で使用しますので記入する必要は	01	02	03	04	05	06
ありません。	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

【番号・数字記入欄】

問 1	<input type="text"/>	問10	<input type="text"/>	問14(a)	<input type="text"/>	回
問 2	<input type="text"/>	問11(a)	<input type="text"/>	回	(b)	<input type="text"/>
問 3	<input type="text"/>	(b)	<input type="text"/>	問15	<input type="text"/>	
問 4	<input type="text"/>	問12(a)	<input type="text"/>	回	問16	<input type="text"/>
問 5	<input type="text"/>	(b)	<input type="text"/>	問17	<input type="text"/>	
問 6	<input type="text"/>	問13 (a)	<input type="text"/>	問18	<input type="text"/>	
問 7	<input type="text"/>	(b)	<input type="text"/>	問19	<input type="text"/>	
問 8	<input type="text"/>	(c)	<input type="text"/>			
問 9	<input type="text"/>	(d)	<input type="text"/>			

【自由記述欄】

A (問3のその他の具体的回答)

( )

B (問4で「8. 学生」と回答された留学生の方の国籍)

( )

C (問4のその他の具体的回答)

( )

D (問5のその他の具体的回答)

( )

E (問6のその他の具体的回答)

( )

F (問10のその他の具体的回答)

( )

G (問11のb)のその他の具体的回答)

( )

H (問12のb)のその他の具体的回答)

( )

I (問14のb)のその他の具体的回答)

( )

J (問17のその他の具体的回答)

( )

K (問18のその他の具体的組合せ)

( )

L (問20の具体的なテーマ)

( )

M (問21の自由記述欄)

( )

(参考) このコード表は、昭和63年度放送利用の大学公開講座アンケート(各大学共通分)回答用紙の01~06までのコードボックスに記入するコードの一覧である。

コード表

[大学コード]

- |                   |          |         |           |
|-------------------|----------|---------|-----------|
| 01 北海道大学          | 02 東北大学  | 03 新潟大学 | 04 金沢大学   |
| 05 信州大学           | 06 名古屋大学 | 07 大阪大学 | 08 広島大学   |
| 09 四国地区<br>(愛媛大学) | 10 熊本大学  | 11 琉球大学 | 12 高岡短期大学 |

[メディアコード]

- |         |         |
|---------|---------|
| 1 テレビ講座 | 2 ラジオ講座 |
|---------|---------|

[科目コード]

- 01 北海道経済の地平をさぐる
- 02 豊かな人間性の創造—開かれた教育のために—
- 03 マテリアル・サイエンス—その基礎から応用へ—
- 04 中国の詩人たち—陶淵明から毛沢東まで—
- 05 脳の発生とその障害—その巧みなしくみを求めて—
- 06 いまに生きる昔話—グリム・メルヒェンの再発見—
- 07 新時代を迎えた世界と北陸の経済
- 08 乳幼児の発達
- 09 センサ工学入門—新しい計測技術への招待—
- 10 日本語セミナー—現代人とことば—
- 11 土—人間とのかかわり
- 12 東海の企業と経済
- 13 高温の科学—先端技術のパイオニア—
- 14 相互理解
- 15 新しい材料を考える
- 16 法と文化—憲法の根底を旅する—
- 17 情報科学—パソコンと人工知能—
- 18 音と人間
- 19 地域に生きる
- 20 工学における諸問題
- 21 沖縄の民俗文化
- 22 工芸の世界

[登録大学コード]

- |        |        |        |        |
|--------|--------|--------|--------|
| 1 愛媛大学 | 2 徳島大学 | 3 香川大学 | 4 高知大学 |
|--------|--------|--------|--------|